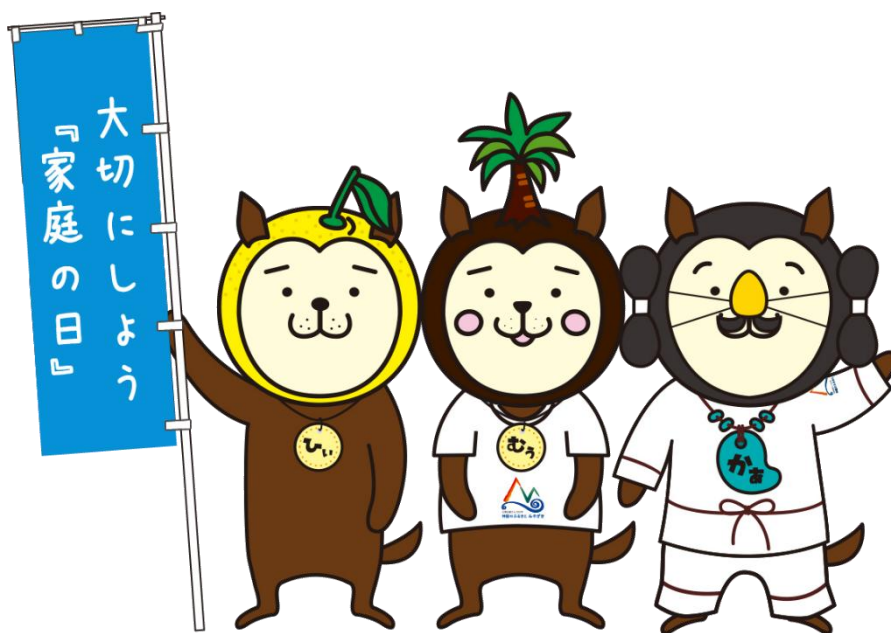




# みやざき家庭教育 サポートプログラム

【令和7年度改訂版】



宮崎県教育委員会

# 目次

「みやざき家庭教育サポートプログラム」の活用にあたって . . . . .	1
「みやざき家庭教育サポートプログラム」のテーマ一覧 . . . . .	3
進行マニュアル、ワークシート集 . . . . .	7
アクティビティの手法 . . . . .	84
アイスブレイキングの方法 . . . . .	85
コラム集 . . . . .	88
プログラム関連の絵本・コラム・情報等 . . . . .	105



# 「みやざき家庭教育サポートプログラム」の活用にあたって

## Ⅰ プログラムの概要

### (Ⅰ) プログラムの特徴

本プログラムは、参加体験型学習の様々な手法を用いて、参加者同士が交流しながら、ともに活動することを通して、親としての役割や子どもとのかかわり方、地域の親子の支援の仕方についての気づきを促すことをねらいとしています。

幼児から中学生の子どもをもつ親、将来の親世代（中学生・高校生・青年等）、祖父母・シニア世代、地域住民を対象とした学習機会（研修・講座・懇談会等）に活用できます。

参加体験型学習	参加者が受け手や聞き手として参加するだけではなく、参加者同士が積極的に交流しながら、ともに活動することで、自らの気づきや行動変容を促すことを目的とした学習方法のこと。
ファシリテーター	参加者の積極的な参加を促し、参加者相互のコミュニケーションが円滑に行われる環境をつくるために、「司会者」「支援者」「役割演技役」などの複数の役割を演じる進行役のこと。

- 保育所職員、幼稚園、小・中学校等の教職員や公民館職員、子育て支援センター職員等がファシリテーター（進行役）となり、活用できるように作成しています。
- ファシリテーター（進行役）は、1人または複数で進行します。
- 一つ一つの学習プログラムは「進行表」「ワークシート」で構成しています。
- 各プログラムに要する時間は60分で設定していますが、2つある活動のうち1つを選択したり、アイスブレイキングや活動の時間を変更したりすることで、柔軟な活用が考えられます。
- まとめの段階に、読み聞かせやブックトークを位置づけていますが、参加者から感想を聞いて終わるなどの展開も考えられます。
- 導入のアイスブレイキング、活動の場面設定、まとめの絵本や情報誌等は、あくまでも例示ですので、ファシリテーター（進行役）の思いや考えで柔軟にプログラムを変更してもかまいません。

## (2) プログラムの進め方

すべてのプログラムは、「導入（アイスブレイキング）→展開（アクティビティ）→まとめ（振り返り、読み聞かせ・ブックトーク）」の流れで構成しており、ファシリテーター（進行役）と参加者が一体となって学習ができるようにしています。

① 導入 (アイスブレイキング)	簡単なゲームなどで雰囲気を和らげ、初対面の参加者の緊張を解きほぐすことを「氷を砕く」という意味で「アイスブレイキング」と呼んでいます。 プログラムの中で取り上げているのは、あくまで例であり、参加者の実態やワークショップのねらいに応じて、アレンジしてください。
② 展開 (アクティビティ)	講義など一方的な知識の伝達スタイルではなく、グループで意見交換や共同作業を行いながら進める学習の形態です。プログラムのワークショップについては、「進行マニュアル」をもとに進めていくことができます。
③ まとめ (振り返り、読み聞かせ・ブックトーク)	ワークショップで気づいたことを個人で振り返り、これまでの自分を見つめ直す時間です。 また、テーマにあった絵本や情報誌等の読み聞かせ、ブックトークを聞いて、活動への意欲をもつことで学習のまとめとします。

### <参加者同士の3つの約束>

プログラムの冒頭で、次の3つの約束を確認します。

① 「一人一人が主役です」

参加者はみんな平等です。一人で話しすぎないようにしましょう。

② 「お互いの意見を尊重しましょう」

お互いの考えや感じ方を尊重し、耳を傾けましょう。相手を否定することは言わないようにしましょう。

③ 「ここだけの話にします」

話し合いの中で知った個人情報、持ち帰らないようにしましょう。

# 「みやざき家庭教育サポートプログラム」のテーマ一覧

## プログラムⅠ 〈子どもといっしょに学ぶプログラム〉

【内容】親子一緒に学ぶことで良好な関係づくりにつなげる。

テーマ	【対象】 プログラム名	ねらい
①子どもと いっしょに 考えよう	【幼児～小学校下学年の親子】 1 おうちのルールを作ろう (基本的な生活習慣)	早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き、あいさつ、朝トイレ等について、家庭にあったルールを親子で考える。
	【小学校上学年～中学生の親子】 2 我が家のルールを作ろう (情報教育)	メディア(ゲーム、インターネット、スマートフォン等)との関わり方について、家庭にあったルールを親子で考える。
②子どもと いっしょに トライしよう	【全対象の親子】 1 紙コップタワー	1つの活動に親子で一緒に取り組み、コミュニケーションをとることで、親子で関わることの楽しさに気づく。  ※ 複数の組合せも可能
	【小学生～中学生の親子】 2 親子ですごろく	
	【小学校上学年～中学生の親子】 3 言い換え辞典カルタ	
	【小学校上学年～中学生の親子】 4 ソーメン・ひやむぎプログラム	
	【小学校上学年～中学生の親子】 5 ルービックスクウェア	

## プログラムⅡ 〈幼児から中学生の子どもをもつ保護者向けのプログラム〉

【内容】子どもの発達段階に応じて、家庭で大切にすべきことを学ぶ。

テーマ	【対象】 プログラム名	ねらい
①親子の コミュニケー ション	【幼児～小学校下学年の保護者】 1 子どものほめ方・しかり方	子どもに対するほめ方やしかり方において、場や状況に応じたよりよい言葉かけを考える。
	【小学校上学年～中学生の保護者】 2 子どもの悩みを聞いてみよう	思春期の子どもの悩みから、親子のコミュニケーションの在り方について考える。
②家庭のしつけと ルール	【幼児～小学校下学年の保護者】 1 早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣	子どもの早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣向上において、我が家のルールを考える。
	【小学校上学年～中学生の保護者】 2 あいさつ返事・言葉遣い	あいさつや返事ができなかつたり、言葉遣いが悪かつたりしたときの対応について考える。
	【幼児～小学生の保護者】 3 約束を守る	親子で決めた約束が守れなかつたときの対応や約束を守るためのしかけについて考える。
	【小学生～中学生の保護者】 4 携帯電話やインターネットと親の対応①	スマホやタブレットのより良い使い方(付き合い方)のルールについて考える。
	【小学生～中学生の保護者】 5 携帯電話やインターネットと親の対応②	SNSに夢中になる子どもの気持ちと親の対応について考える。
	【小学生～中学生の保護者】 6 思いやりのある行動	子どもが思いやりのある行動がとれた時ととれなかつた時の対応について考える。
③子どもの安全・ 健康	【幼児～小学校下学年の保護者】 1 子どもの安全について考えよう	地域の中の事故・事件の両面において、子ども達を危険から守るための具体的な方策を考える。
	【小学校上学年～中学生の保護者】 2 ゲームやテレビ、SNS視聴等以外の家庭での楽しみ方	子どものゲームやテレビ、SNS等に使用している時間について振り返り、子どもの時間をどう過ごすか考える。

④子どもの個性と夢	【幼児～小学校下学年の保護者】 1 我が子のPR～短所も長所～	子どもの長所や短所を見つめなおし、短所も肯定的に捉えながら自分の子どもの個性を考える。
	【小学校上学年～中学生の保護者】 2 応援したい！子どもの夢や希望	子どもがもっている将来の夢や希望から、親の子どもへの思いや願いを本音で共感し合う。
⑤学校や地域とのかかわり	【幼児～小学校下学年の保護者】 1 子どもとともに地域で自然と遊ぼう	自分が子どもの頃にした自然体験から、子どもの成長にどんな自然体験が必要かを考える。
	【小学校上学年～中学生の保護者】 2 社会体験で地域とつながろう	自分が子どもの頃にした社会体験から、子どもの成長にどんな社会体験が必要かを考える。
	【小学生～中学生の保護者】 3 先生といっしょに子どもを育てよう	先生の立場や考え方を理解・共有し、同じ歩調で子どもを育てようとする態度を育てる。
⑥心の痛みに寄り添う	【幼児～小学校の保護者】 1 子どもの心に寄り添う	心を痛めている子どもへの関わり方について考える。
	【小学校上学年～中学生の保護者】 2 差別を考えよう	子どもが差別につながる言動をしたときの関わり方について考える。
⑦子育て仲間づくり	【全対象の保護者】 1 子育ての悩みを語り合おう	子育てに関する悩みを、お互いに伝え合いながら、子どもとの関わり方について考え、相談できる仲間づくりにつなげる。
	【全対象の保護者】 2 「子育てすごろく」にチャレンジ	設定された複数のテーマに沿って、子育てについて話すことで、子どもへの関わり方について考え、相談できる仲間づくりにつなげる。

### プログラムⅢ 〈将来の親世代（中学生・高校生・青年等）向けのプログラム〉

【内容】親になったときに、必要なこと・大切にしたいことを学ぶ。

テーマ	【対象】 プログラム名	ねらい
①親の立場の理解	子どもの気持ちと親の気持ち	子どもに注意や忠告をする親の気持ちから、親子がお互いに理解し合える会話について考える。
②家族の一員として	家事・育児は誰の仕事ですか	家事や育児の考え方や、家事や育児の分担の仕方から、男女の協力の在り方について考える。
③大人としての自立	働くことについて考えよう	自分が将来就きたい職業や働くことの目的や意義から、自立した大人について考える。
④地域の一員として	地域活動に参加しよう	地域の方々がやっている地域活動から、自分達にできそうな地域活動について考える。
⑤子どもの気持ちを受け止める	悩みを一緒に考える	いやな思いをして、いつもと様子が違うとき、親としてどう受け止め対応するか考える。

### プログラムⅣ 〈祖父母・シニア世代向けのプログラム〉

【内容】子育ての先輩として、祖父母・シニアに望まれることを学ぶ。

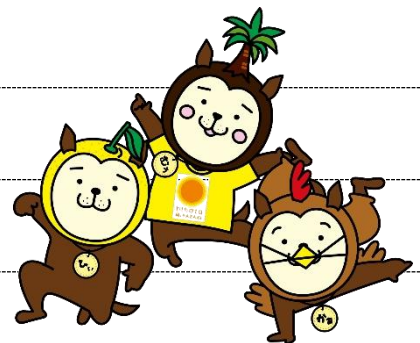
テーマ	【対象】 プログラム名	ねらい
①祖父母としての役割	1 孫へのかかわり方について考えよう	孫へのかかわり方から、祖父母としての役割について考える。
	2 子育て中の親への接し方について考えよう	祖父母として子育てをしている親へのかかわり方から、祖父母としての役割について考える。
②子育ての先輩として	地域の親の相談にのろう	子育てに悩んでいる地域の親とのかかわり方から、子育ての先輩としての役割について考える。
③シニアの知識や技	自分のもっている知識や技を伝えよう	自分のもっている知識や技を生かし、地域の子どものためにできそうなことについて考える。

プログラムⅤ 〈地域住民向けのプログラム〉

【内容】 地域の親子とのかかわり方において、望まれることを学ぶ。

テーマ	【対象】 プログラム名	ねらい
①子どもを見守る	地域の子どもは地域で育てる	地域の子ども達とのかかわり方から、地域住民としての役割について考える。
②地域活動への参加	1 地域活動の輪を広げよう（地域住民）	地域の親子が参加できそうな地域活動から、地域活動の輪を広げる必要性について考える。
	2 地域活動の輪を広げよう（企業）	地域にある企業として地域の親子と関わる活動について話し合うことを通して、地域活動の輪を広げる。
③地域を知る	地域のよさ（ひと・もの・こと）を伝えよう	地域のよさ（ひと・もの・こと）を地域の親子に伝えるための方法について考える。

A large rectangular area with a solid black border and horizontal dashed lines, intended for writing practice.



# 進行マニュアル ワークシート集








【プログラムI-①-1】

**テーマ** 子どもといっしょに考えよう

**プログラム** おうちのルールを作ろう（基本的な生活習慣）

**ねらい** 早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き、あいさつ、朝トイレ等について、家庭にあったルールを親子で考えながら良好な親子関係を学ぶ。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスプレイング ・フルーツバスケット 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐしグループ内での円滑な話し合いのためにアイスプレイングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 「早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き、あいさつ、朝トイレ等」の基本的な生活習慣を身に付けることよさについて親子で考える。 ① ラベルに記入する(親)  早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き、あいさつ、朝トイレが身に付くと、どのようなよいことがあるのでしょうか。親子で考えてラベルに記入しましょう。 ② ラベルワークを行い、グループで話し合う  グループで一組ずつ説明しながら用紙に貼り付けましょう。様々な考えがあり、とても参考になりましたね。 ③ 全体で話し合う	ワークショップ1(ラベルワーク) 「早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き、あいさつ、朝トイレ」が身に付くと、どのようなよいことがあるのでしょうか。 例:「元気に生活できる」 「病気になりにくい」 ・まず、子どもが発言し、その後、サポートする形で親が発言する。
展開 (2) 20分	5 早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き、あいさつ、朝トイレ等の基本的な生活習慣向上のために「〇〇家元気モリモリ大作戦」を考える。 ① ワーク2に記入する  早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き、あいさつ、朝トイレ等の基本的な生活習慣向上のために、これから頑張りたいことを考えましょう。 ② グループで話し合う  「〇〇家元気モリモリ大作戦」については、グループや全体の発表を聞いて、考えたことを修正してもいいですよ。 ③ 全体で話し合う	ワークショップ2(話し合い) 「早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き、あいさつ、朝トイレ」を身に付け、毎日元気に生活できるように「〇〇家元気モリモリ大作戦」を考えよう。 例:「9時になったらテレビを消す」 「朝ごはんのお手伝いをする」 ※お茶碗を出したり、箸を並べたり 「笑顔であいさつする」 ・親子で一緒に努力していけるようなことを考えてもらう。 ・グループや全体の発表を聞いて、考えたことを修正してもよい。
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  文部科学省リーフレット「できることから始めよう 早ね早おき朝ごはん」を紹介し、生活習慣向上のために、今日話し合ったことをできるところからやってみようといいたいですね。	・文部科学省リーフレット「できることから始めよう 早ね早おき朝ごはん」を紹介し、親子で決めたルールの実践化に向けて親子で考える意欲をもたせる。 ・今日の学習の感想を書かせる。

# 『【1-①-1】おうちのルールを作ろう（基本的な生活習慣）』

## ワークシート

### ワーク1（ラベルワーク）

＜課題＞「早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き、あいさつ、朝トイレ」が身に付くと、どのようなよいことがあるのでしょうか。

メモ

### ワーク2（話し合い）

＜課題＞「早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き、あいさつ、朝トイレ」を身に付け、毎日元気に生活できるように「〇〇家元気モリモリ大作戦」を考えよう。

メモ

＜今日の学習の感想＞






【プログラムI-①-2】

**テーマ** 子どもといっしょに考えよう

**プログラム** 我が家のルールを作ろう（情報教育）

**ねらい** メディア（ゲーム、インターネット、スマートフォン等）との関わり方について、家庭にあったルールを親子で考えながら良好な親子関係を学ぶ。

<展開（60分）>

時間	展開（進行マニュアル）	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・〇×クイズ 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐしグループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 メディア（ゲーム、インターネット、スマートフォン等）のメリットとデメリットについて考える。 ① ラベルに記入する  「メディアを使うときのメリットとデメリットは何でしょう。体験したことや知っていることなどから考えてみましょう。」 ② ラベルワークを行い、グループで話し合う デメリットに関しては、どんな対応策があるか具体的に考えてみましょう。様々な情報を聞くことができ、とても参考になりましたね。  ③ 全体で話し合う	<ワークショップ1（ラベルワーク）> 情報メディアを使うときのメリットデメリットは何でしょう。 例：「分からないことをすぐに調べられる」 「友達と連絡がとりやすい」 「やり過ぎてしまうことがある」 「視力が落ちる」 ・親子別々にラベルワークを行い、全体で話し合う際に考えを交流することでテーマを多面的に捉えることができるようにする。
展開 (2) 20分	5 ゲーム、インターネット、スマートフォン等の使い方について我が家のルールを親子で考える。 ① ワーク2に記入する  「ゲーム、インターネット、スマートフォン等の使い方について、「〇〇家のメディアルール〇か条」を考えましょう。」 ② グループで話し合う 「〇〇家のメディアルール〇か条」については、グループや全体の発表を聞いて、考えたことを修正してもいいですよ。  ③ 全体で話し合う	<ワークショップ2（話し合い）> ゲーム、インターネット、スマートフォン等の使い方についての「〇〇家のメディアルール〇か条」を考えよう。 例：「時間を決める」 「ノーメディアデー（タイム）を設ける」 「〇時になったら各メディアの電源を切る」 ・親子で一緒に努力していけるようなことを考えてもらう。 ・グループや全体の発表を聞いて、考えたことを修正してもよい。 ・時間があれば、「〇〇家のメディアルール〇か条」を考えても良い。本題はルールを考えることなので、ルール名を考えることに時間をとられないよう留意する。
まとめ 10分	6 まとめ ・ブックトーク ・今日の学習の感想  「最後に、『メディア漬け』で壊れる子どもたち」という本を紹介します。メディアとの上手な関わり方を考えて、できることからやってみましょう。」	・「『メディア漬け』で壊れる子どもたち」（清川輝基作、少年写真新聞社）のブックトークを聞きメディアを上手に関わる実践を親子で進めていく意欲をもたせる。 ・今日の学習の感想を書かせる。

# 『(1-①-2) 我が家のルールを作ろう (情報教育)』

## ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題>情報メディアを使うときのメリットデメリットは何でしょう。

メリット	デメリット

### ワーク2 (話し合い)

<課題>ゲーム、インターネット、スマートフォン等の使い方についての「〇〇家のメディアルール〇か条」を考えよう。

メモ

<今日の学習の感想>

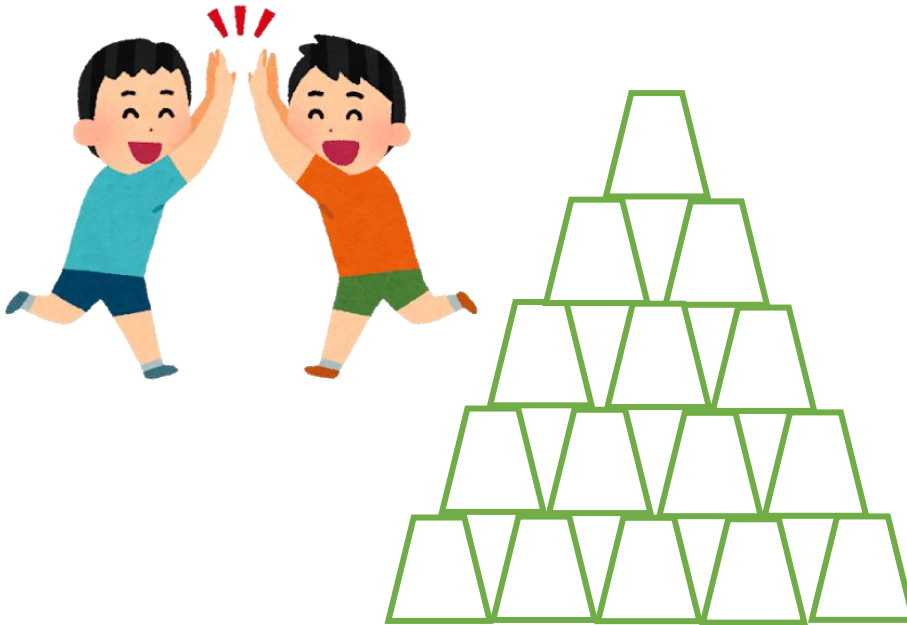
【プログラムI-②-1】

テーマ 子どもといっしょにトライしよう

プログラム 紙コップタワー

ねらい 1つの活動に親子で一緒に取り組み、コミュニケーションをとることで、親子で関わることの楽しさに気づく。

☆ 30秒以内にできるだけ高く、紙コップを積み上げましょう！



【1-②-2】 テーマ：子どもといっしょにトライしよう プログラム：「親子ですごろく」

スタート

➔



好きな食べ物は？	好きな芸能人は？	最近見た夢は？	今、気になるニュースは？
幸せと感ずるときは？	最近一番おもしろかったことは？	ストレス(もやもや)発散法は？	好きなテレビ番組は？
これからチャレンジしたいことは？	最近一番おもしろかったことは？	歌を歌うのと聴くの、どっちが好き？なぜ？	最近一番びっくりしたことは？
もう1回サイコロをふって進む	もう1回サイコロをふって進む	宝くじが当たったら？	今、はまっていることは？
自分が頑張っていると思うことは？	子ども(家族)に一番言いたいことは？	教えて！パートI 今一番行ってみたいところは？	ラッキー★★★(3マス)進む



ゴール

ラッキーチャンス☆

誰かが止まったら、他の人も話せるよ！話をした人は全員2マス進めるよ！

教えて！パートIII

あなたの家族の自慢をしよう☆

みんなでハイタッチ！

【プログラムI-②-3】

テーマ 子どもといっしょにトライしよう

プログラム 言い換え辞典カルタ

ねらい 1つの活動に親子で一緒に取り組み、コミュニケーションをとることで、親子で関わることの楽しさに気づく。

☆ 人間の脳は、褒められると成長すると言われています。短所を長所に、悪口を褒め言葉にしてみましょう。褒めることで長所をさらに伸ばし、短所を長所に転換してしましましょう。

この、「言い換え辞典カルタ」で、みんなから好かれる褒め上手な人に変身してみませんか？

《悪口短所カード》

あきっぽい	だらしない	負けず嫌い
いいかげん	調子に乗る	見栄っ張り
うるさい	冷たい	向こう見ず
遠慮がない	でしゃばり	面倒くさがり
落ち着きがない	どじ	妄想的
変わり者	生意気	やんちゃ
気が強い	煮え切らない	優柔不断
口が悪い	抜け目ない	要領がいい
けじめがない	ねくら	乱暴
こだわる	のんき	利己的
さわがしい	反抗的	ルーズ
しつこい	人付き合いが悪い	冷淡
凶々しい	ふざける	浪費癖
せっかち	変人	わがまま
外面がいい	ぼーっとしている	ケチ

カードは両面刷りにして2組用意します。カードには、表に悪口、裏に褒め言葉が書いてあります。  
 1組は、カードの長所・褒め言葉を表にして、プレイヤーの前に並べます。もう1組は読み手が持  
 って裏の悪口や短所カードを読み上げます。プレイヤーは、その悪口や短所を長所に言い換えたカー  
 ドを取ります。裏を見て正解かどうか確認します。お手つきは何回やっても結構です。間違ってい  
 たら、「間違いました」といって、カードを元に戻しましょう。最後の1枚を残してゲームは終了します。  
 カードをたくさん取った人が優勝です。



《長所・褒め言葉カード》

やる気がある	おおらかである	趣味が広い
向上心が高い	のりがいい	寛大な
勇気がある	冷静・客観的	元気がいい
物事にとらわれない	世話好き	フランク
夢がある	ユーモアがある	好奇心旺盛
元気がある	自立心が強い	個性的
多様な考えができる	思慮深い	意志が強い
機転が利く	しっかりしている	はっきり言える
冒険的	自分の世界をもっている	集中力がある
自尊心が高い	こだわりがない	自分の考えを大切にする
マイペース	自立心が強い	明るい・活発
クール	自分を大切にする	粘り強い
太っ腹	周りを楽しませる	行動力がある
自由奔放	ユニークな人	反応が早い
儉約家	細かいことを気にしない	社交的である

【プログラムI-②-4】

テーマ 子どもといっしょにトライしよう

プログラム ソーメン・ひやむぎプログラム

ねらい 1つの活動に親子で一緒に取り組み、コミュニケーションをとることで、親子で関わることの楽しさに気づく。

☆ 家族みんなで調べてみよう。  
(辞書やインターネットで検索して違いを調べてみよう。)

- 「ひやむぎ」と「ソーメン」
- 「おむすび」と「おにぎり」
- 「カレーライス」と「ライスカレー」
- 「炒飯」と「焼き飯」
- 「ラーメン」と「中華そば」
- 「ちらし寿司」と「ばら寿司」
- 「炊き込みご飯」と「まぜご飯」
- 「おこわ」と「赤飯」
- 「雑炊」と「おじや」と「おかゆ」
- 「パエリア」と「ピラフ」
- 「たこ焼き」と「明石焼き」
- 「お漬物」と「お新香」
- 「寿司」と「鮓」
- 「菓子」と「水菓子」
- 「果物」と「果実」
- 「目玉焼き」と「卵焼き」
- 「汁物」と「吸い物」
- 「ビーフン」と「春雨」
- 「さけ」と「シャケ」
- 「勉強」と「学習」



【プログラムI-②-5】

テーマ 子どもといっしょにトライしよう

プログラム ルービックスクウェア

ねらい 1つの活動に親子で一緒に取り組み、コミュニケーションをとることで、親子で関わることの楽しさに気づく。

☆ 紙を折り曲げながら四文字熟語を作ります。あなたは、全部作ることができますか？

《作り方》

- ①外側の実線をはさみで切ります。
- ②真ん中の横の破線から二つ折りにして糊づけします。
- ③枠内の縦の三本の実線を切ります。
- ④点線以外は折り曲げないでください。
- ⑤みんなで四文字熟語の意味を考えましょう。



	四文字熟語	作れたら○	意味は？
ルービックスクウェア	早寝早起		
	家族円満		
	医食同源		
	以心伝心		
	快食快便		
	温故知新		
	因果応報		
	付和雷同		
ルービックスホール	賞味期限		
	消費期限		
	自給自足		
	地産地消		
	有機栽培		
	自然栽培		

早	食	庭	寢
早	源	滿	起
医	家	心	食
同	円	心	便
伝	快	新	知
同	和	円	応
快	報	墨	付
以	番	故	晋

賞	自	消	味
期			裁
機			費
同	消	培	限
足	培	限	知
庭			然
裁			付
給	目	有	地






【プログラムⅡー①ー1】

**テーマ** 親子のコミュニケーション

**プログラム** 子どものほめ方・しかり方

**ねらい** 子どもに対するほめ方やしかり方についてロールプレイングをしたり、話し合ったりすることを通して、場や状況に応じたよりよい言葉かけについて考える。

<展 開 (60分) >

時間	展 開 (進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・仲間さがし 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 子どもをしかる時のよりよい言葉かけについて考える。 ① ラベルに記入する  <p>ワークシートを配ります。子どもを叱ったときに、うまくいかなかった経験や言葉かけについて思い返してメモし、ラベルに記入しましょう。</p> ② ラベルワークを行う  <p>ラベルに書いたことを一人ずつ説明しながら用紙に貼り付けていきましょう。同じものがあったら、近くに貼り付けて、分類しましょう。</p> ③ グループで話し合う  <p>グループ内の皆さんの経験を聞いて、子どもの叱り方について感じたことを話し合しましょう。後で、グループの代表の方に発表してもらいます。</p> ④ 全体の場で発表する	<ワークショップ1 (ラベルワーク) > 子どもを叱ったときに、うまくいかなかった経験、言葉にはどんなものがあるか 例：感情的になってしまった。 前のことを持ち出して長く説教 「だからあんたはだめなのよ」など ・すべての参加者の考えに対して、共感的に受け止めるようにする。
展開 (2) 20分	5 子どもへのよりよい言葉かけについて考える。 ○ ワーク2に記入し、ロールプレイングを行う  <p>子供役と親役に分かれて、ロールプレイングをしましょう。気づいたことを後で話し合しましょう。</p> ※ 代表のグループがロールプレイングを発表する。	<ワークショップ2 (ロールプレイング) > ① 花瓶をこわした時 ② できなかったことができるようになった時 例：「自分から話してくれて嬉しいな」 「今忙しいから後で聞かせてね」 「すごいじゃない。頑張ったね」 ・言葉でのほめ方だけでなく、表情や手振り等の表現を工夫することにも気づいてもらう。 ・「あなた」を主語にしたYOUメッセージ※だけでなく、「私」を主語にしたIメッセージ※のよさについても伝える。
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  <p>最後に、絵本を読みます。これからも子どもの気持ちに寄り添って言葉かけができるといいですね。</p>	・絵本の読み聞かせを聞き、子どもの気持ちに寄り添うことの大切さに気付かせる。 絵本例：「おこだでませんように」 作・くすのき しげのり ・今日の学習の感想を書かせる。

※YOUメッセージ…「あなたは〇〇だね」と相手を主語にして観察したことや感じたことを伝えるメッセージ  
 ※Iメッセージ… 「私は〇〇だよ」と発信する人の「私 (I)」を主語にして感じたことを伝えるメッセージ

## 『【11-①-1】子どものほめ方・しかり方』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題> 子どもを叱ったときにうまくいかなかった経験や言葉かけには、どのようなものがありますか。

メモ

### ワーク2 (ロールプレイング)

<場面設定> ① 家の中で暴れていて、大事な花瓶をこわしてしまって、子どもが何も言わない時。  
② 夕食の支度をしている最中に、子どもが「今日、水泳で初めて5メートル泳げたよ。」と言ってきた時。

<子ども役>

(例) ・「・・・。」(何も言わないでだまっている。)  
・「お母さん、やったよ。今日、水泳で初めて5メートル泳げたよ。」



<親役>

<今日の学習の感想>






【プログラムⅡー①ー2】

**テーマ** 親子のコミュニケーション

**プログラム** 子どもの悩みを聞いてみよう

**ねらい** 思春期の子どもの悩みについて話し合ったり、ロールプレイングをしたりすることを通して、親子のコミュニケーションの在り方について考える。

<展 開 (60分) >

時間	展 開 (進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスプレイング ・自己紹介 ・フルーツバスケット 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスプレイングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 思春期の子どもの悩みについて考える。 ① ラベルに記入する  <p>思春期の子どもの悩みについて考えましょう。実際に子どもが悩んでいることだけでなく、自分が子どもの頃悩んでいたことや、一般的な子どもの悩みなどもあげてください。</p> ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う  <p>意見を、身体のこと、学力のこと、友人・異性関係、親子関係などのカテゴリーで分けましょう。どんなカテゴリーの悩みが多く挙げられたでしょうか。</p>	<ワークショップ1 (ラベルワーク) > 思春期の子どもの悩みについて考えましょう。 例：「うちの子は友達関係で悩んでいます」「自分は運動が苦手でした」「父親とうまくいっていない」など ・実際に子どもが悩んでいることだけでなく、自分が子どもの頃悩んでいたことや、一般的な子どもの悩みなども挙げる。 ・意見を、身体のこと、学校のこと、友人・異性関係、親子関係などのカテゴリーで分けた後で、話し合う。
展開 (2) 20分	5 子どもの悩みに対するよりよい言葉かけについて考える。 ① ワーク2に記入し、ロールプレイングを行う  <p>子どもの悩みに対するよりよい言葉かけについて考えましょう。悩みの内容については、事前にペアで話し合っ決めてください。</p> ② グループ・全体で話し合う  <p>他のペアの方のロールプレイングを御覧になっていかがでしたか。これまでの自分の子どもへの対応についても振り返ってみましょう。</p>	<ワークショップ2 (ロールプレイング) > 子どもが普段より元気がなく、悩みを打ち明けたそうな時。 例：「お母さんも子どもの頃悩んでいたよ」「学校の先生に相談してみたらどうかな」「お父さんと一緒に頑張ってみるか」など ・悩みの内容については、事前にペアで話しあって決める。 ・話し合いでは、ロールプレイングを見た感想だけでなく、これまでの自分の子どもへの対応についても振り返ってもらう。
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  <p>最後に、「きもち」という絵本を読みます。思春期のお子さんの悩みに少しでも寄り添ってあげられるといいですね。</p>	・「きもち」(ジャンン・ケイン作、少年写真新聞社)の読み聞かせを聞き、子どもの悩みに寄り添うことの大切さに気付かせる。 ・今日の学習の感想を書かせる。

## 『【11-①-2】子どもの悩みを聞いてみよう』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題> 思春期の子どもの悩みについて考えましょう。

メモ

### ワーク2 (ロールプレイング)

<場面設定> 子どもが普段より元気がなく、悩みを打ち明けたそうな時。

<子ども役>

(例) 「お母さん、学校の友達が最近無視するんだ。」



<親役>

<今日の学習の感想>






【プログラムⅡ-②-1】

**テーマ** 家庭のしつけとルール

**プログラム** 早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣

**ねらい** 子どもの早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣向上のために気をつけることを話し合い、早寝・早起き・朝ごはんのための我が家のルールを考える。

<展 開 (60分) >

時間	展 開 (進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・4つのコーナー 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣を身に付けることよさについて考える。 ① ラベルに記入する  早寝・早起き・朝ごはんを身に付けると、どのようなよいことがあるのでしょうか。自分の考えをラベルに記入しましょう。 ② ラベルワークを行い、グループで話し合う  グループで一人ずつ説明しながら用紙に貼り付けましょう。出た意見を分類し、話し合いましたね。 ③ 全体で話し合う	<ワークショップ1 (ラベルワーク) > 「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣が身に付くと、どのようなよいことがあるのでしょうか。 例：「生活のリズムを整えられる」 「健康な体をつくれる」 「学習に集中できる」など ・出た意見を分類し、話し合う。 分類例：体調面、生活面、学習面
展開 (2) 20分	5 早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣向上のために「我が家で気をつけたいこと」を考える。 ① ワーク2に記入する  早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣向上のために「気をつけたいこと」を考えましょう。子どもだけでなく、親も一緒に努力していけるようなことを考えましょう。 ② グループで話し合う  「我が家で気をつけたいこと」については、それぞれの家庭にあった数でいいですよ。グループや全体の発表を聞いて、自分が考えたことを修正してもいいですよ。 ③ 全体で話し合う	<ワークショップ2 (話し合い) > 早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣向上のために「我が家で気をつけたいこと」を考えよう。 例：「9時になったらテレビを消す」 「夕食はできるだけ家族と一緒に食べる」 「寝る前に読み聞かせや読書をする」など ・子どもだけでなく、親も一緒に努力していけるようなことを考えてもらう。 ・グループや全体の発表を聞いて、自分が考えたことを修正してもよい。 ・「気をつけたいこと」については、いくつでもかまわないことを伝える。
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  最後に、「14ひきのあさごはん」という絵本を読みます。早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣向上のために、できることからやっているといいですね。	・絵本「14ひきのあさごはん」(いわむらかずお作、童心社)の読み聞かせを聞き、早寝・早起き・朝ごはんの実践化に向けて意欲をもたせる。 ・今日の学習の感想を書かせる。

## 『【11-②-1】早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

＜課題＞「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣が身に付くと、どのようなよいことがあるのでしょうか。

メモ

### ワーク2 (話し合い)

＜課題＞早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣向上のために「我が家で気をつけたいこと」を考えましょう。

＜今日の学習の感想＞

【プログラムⅡ-②-2】

**テーマ** 家庭のしつけとルール

**プログラム** あいさつ返事・言葉遣い

**ねらい** あいさつや返事ができなかつたり、言葉遣いが悪かつたりしたときの対応について考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	<p>1 テーマの説明</p> <p>2 アイスブレイキング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介</li> <li>・同じ色あつまれ</li> </ul> <p>3 「3つの約束」の確認</p>	<p>・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;3つの約束&gt;</p> <p>① 一人一人が主役です</p> <p>② お互いの意見を尊重しましょう</p> <p>③ ここだけの話にします</p> </div>
展開 (1) 20分	<p>4 あいさつや言葉かけについて考える。</p> <p>① ラベルに記入する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1日の生活の中で、子どもにあいさつや言葉かけをするのは、どんな時がありますか。日頃の自分のあいさつや言葉かけをラベルに記入しましょう。</p> </div> <p>② ラベルワークを行い、グループで話し合う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ラベルに書いたあいさつや言葉かけを、一人ずつ説明しながら用紙に貼り付けていきましょう。同じものがあつたら近くに貼り付けて、分類しましょう。その中で、今まで子どもの反応がなかつたことがありますか。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;ワークショップ1(ラベルワーク)&gt;</p> <p>子どもへのあいさつや言葉かけについて考えましょう。</p> </div> <p>例：「おはよう」 「おかえりなさい」 「今日は、どうだった？」</p> <p>・1日の生活を考え、「朝」「帰宅後」「夕食後」「休日」等の時間帯に分けて分類する。 ・反応がなかつた場面を思い出させ、ワーク2のロールプレイングにつなげる。</p>
展開 (2) 20分	<p>5 子どもへのよりよい言葉かけについて考える。</p> <p>① ワークシートに記入し、ロールプレイングを行う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>子ども役と親役に分かれて、ロールプレイングをしましょう。子どもに無視されたときのよりよい言葉かけについて考えましょう。役割はペアで話し合ってください。</p> </div> <p>② 代表のペアがロールプレイングを発表する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>他のペアの方のロールプレイングをご覧になっていかがでしたか。これまでの自分の子どもへの対応について、振り返ってみましょう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;ワークショップ2(ロールプレイング)&gt;</p> <p>学校から無言で帰つて来た子どもに、「おかえり」と言つて無視されたとき</p> </div> <p>例：「返事しなさい」 「何で何も言わないの」</p> <p>・ワーク1のラベルワークで、反応がなかつた物の中から、テーマを選んでよい。</p>
まとめ 10分	<p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ</li> <li>・今日の学習の感想</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>最後に「こんにちは」という本を紹介します。これから新たな気持ちで、お子さんへあいさつや言葉かけができるといいですね。</p> </div>	<p>・「こんにちは」(本間正樹作 佼成出版)の読み聞かせを聞き、あいさつが人を結び付け、仲間を作り、自分の心を明るくすることに気付かせる。</p> <p>・今日の学習の感想を書かせる。</p>

## 『(11-②-2) あいさつ返事・言葉遣い』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題>子どもへのあいさつや言葉かけについて考えましょう。

メモ

### ワーク2 (ロールプレイング)

<場面設定>学校から帰って来た子どもに「おかえり」と言って無視された時

メモ

<今日の学習の感想>

【プログラムⅡ-②-3】

**テーマ** 家庭のしつけとルール

**プログラム** 約束を守る

**ねらい** 親子で決めた約束が守れなかったときの対応や約束を守るためのしつけについて考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	<p>1 テーマの説明</p> <p>2 アイスブレイキング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介</li> <li>・仲間探し など</li> </ul> <p>3 「3つの約束」の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;3つの約束&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 一人一人が主役です</li> <li>② お互いの意見を尊重しましょう</li> <li>③ ここだけの話にします</li> </ol> </div>
展開(1) 25分	<p>4 約束を守れない理由と対応について考える。</p> <p>① ラベルに記入する</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>あらかじめグループごとに配ってある用紙に、子どもたちの言い訳を記入したラベルを貼っていきます。</p> </div> <p>② ラベルに書いた「言い訳」に対するロールプレイングを行う</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>親役と子役に分かれて、ロールプレイングをしましょう。 子役の方は、ラベルの言い訳をもとに親役の方へ投げかけます。 親役の方は子役の方へどんどん言い返していきます。</p> </div> <p>③ グループで話し合う</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ロールプレイングをもとに、それぞれの対応がどうだったか見つめ直していきましょう。</p> </div> <p>④ 代表のグループがロールプレイングを発表する</p>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;ワークショップ1(ラベルワーク)&gt; 子どもの目線になって、約束が守れなかったときの言い訳を考えましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーナーがあらかじめ、全体でのテーマとなる約束を決めておきましょう。</li> <li>例：約束「夜〇時までには寝よう」</li> <li>・ゲームがやめられなかった。</li> <li>・おもしろいテレビがあった。など。</li> </ul> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>&lt;ワークショップ2(ロールプレイング)&gt; ラベルワークの言い訳について、親としての対応をします。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての言い訳は、起こり得るものとして肯定する。</li> <li>・受けごたえの難しさについて実感しつつ、より応用性のある対応についてグループで考察する。</li> </ul>
展開(2) 15分	<p>5 約束を守るためのしつけについて考える。</p> <p>① ラベルに記入する</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どのようにすれば、より約束を守れるようになるかロールプレイングを参考にラベルへ記入します。</p> </div> <p>② グループで話し合う</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ラベルワークの内容を参考に、約束を守るしつけについてグループでまとめましょう。</p> </div> <p>③ 全体の場で発表する</p>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;ワークショップ3(ラベルワーク)&gt; どうすれば、より約束を守ることができるかどうか考えましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーク2のロールプレイングをもとに考える。</li> <li>・できなかったら罰を与えたり、できたらご褒美(物)を与えたりということは、本日のグループワークではしないように呼びかける。</li> <li>・すべての発表に対して、共感的に受け止めるようにする。</li> </ul>
まとめ 10分	<p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ</li> <li>・今日の学習の感想</li> </ul> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>最後に「ともだちのやくそく」という絵本を読みます。絵本ですが、子どもの気持ちになって、これからの家庭での約束について見つめ直してみましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本「ともだちのやくそく」(中川ひろたか作 アリス館)の読み聞かせを聞き、子どもの視点で約束を立てる重要性、約束を守ることの大切さ、守れなかったときに起こること、守れたときの喜びを親子で共感することの大切さに気付かせる。</li> <li>・今日の学習の感想を書かせる。</li> </ul>

## 『(11-②-3) 約束を守る』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

＜課題＞子どもの目線になって、約束が守れなかったときの言い訳を考えましょう。

メモ

### ワーク2 (ロールプレイング)

＜課題＞ラベルワークの言い訳についての親としての対応

### ワーク3 (ラベルワーク)

＜課題＞どうすれば、より約束を守ることができるかどうか考えましょう。

メモ

＜今日の学習の感想＞




【プログラムⅡ-②-4】

**テーマ** 家庭のしつけとルール

**プログラム** 携帯電話やインターネットと親の対応①

**ねらい** スマホやタブレットのより良い使い方(付き合い方)のルールについて考える。

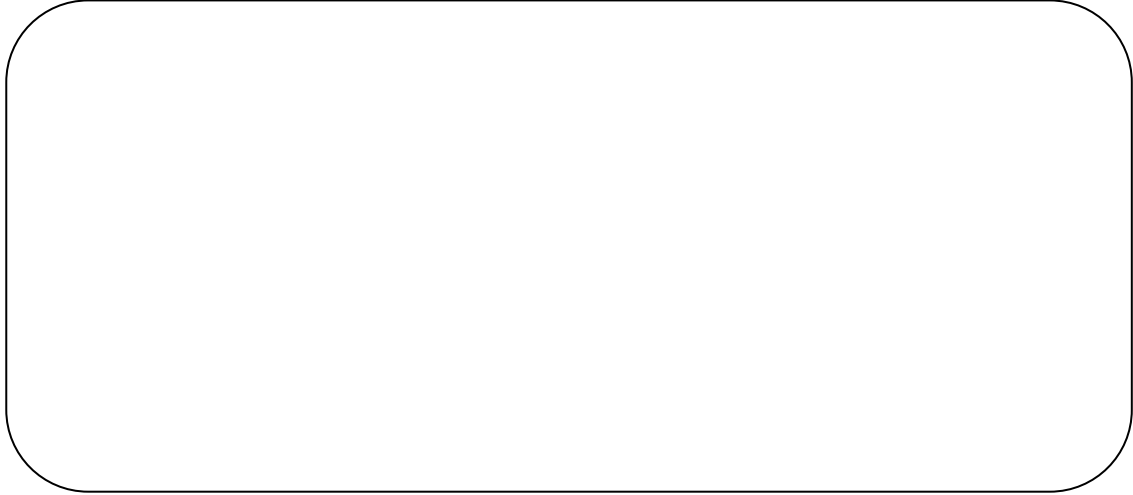
<展 開 (60分) >

時間	展 開 (進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・サイコロトーク(スマホ・タブレットに関する内容) ・ワンワードゲーム 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 スマホの便利なところ・良い面について考える ① オススメアプリ(機能)のベスト3を考え、付箋に書き出す。  みなさんが日頃から利用している便利なアプリや機能を共有しましょう ② 出された意見をグルーピングする	<ワークショップ1 (ラベルワーク) > スマホのオススメアプリ(機能)ベスト3を考えよう。 例： 「位置情報：安全」 「チャットGPT、CANVA：生成AI」 「LINE、メール：連絡手段」など ・スマホやタブレットの良さについて再認識できるように、珍しいアプリや便利なアプリについては、全体で共有する。
展開 (2) 20分	5 スマホやタブレットに関する我が家のルールを共有する。 ① 自分の考えを書く。  御家庭のルールをお書きください。スマホやタブレットをお持ちにならない御家庭については、今後所有した場合にどのようなルールを設けるかを考え、お書きください。 ② グループで意見交換する。 それぞれの立場で意見を出し合ってください。 	<ワークショップ2 (個人→グループ) > スマホやタブレットに関する我が家のルールを共有しよう。 例：9時以降は使用禁止 課金は禁止 親の見ているところで使う 食事中は見ない など… ・一方的にルールを設定するのではなく、親子で納得できるルールを共有することに目を向ける。 ・ルールについては、今実施しているものでも、「あったらいいな」というものでも構わない。 ・時間が余れば、ルールが守れなかった際の対応について意見交換を行う。
まとめ 10分	6 まとめ 「正しく疑う」・「学ぶ みんなのメディアリテラシー」(著：池上彰)を活用する。	・スマホやタブレットを使用する際の光と影について考え、また、それぞれの家庭のルールを知ることで、今後の家庭でのスマホやタブレットの使用に関するルールの在り方について考えていく材料を得られるようにする。

## 「[11-②-4] 携帯電話やインターネットと親の対応①」ワークシート

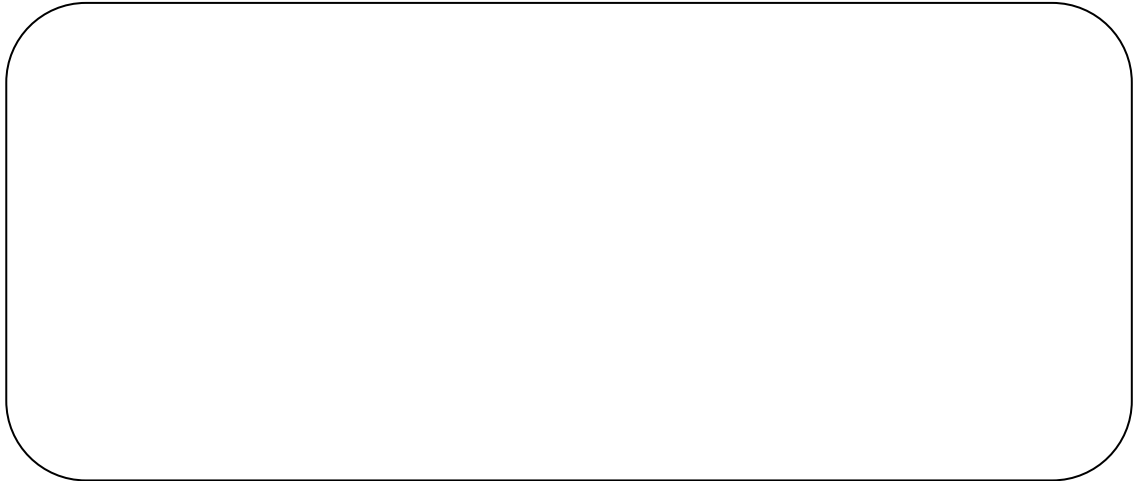
### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題> スマホのオススメアプリ (機能) ベスト3を考えよう。  
～メモ～

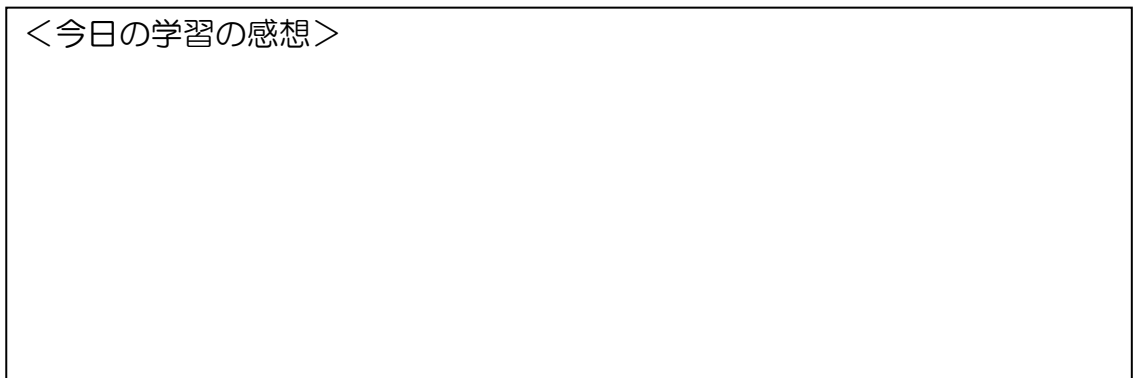


### ワーク2 (話し合い)

<課題> スマホやタブレットに関する「我が家のルール」を共有しよう。  
～メモ～



<今日の学習の感想>








【プログラムⅡ-②-5】

**テーマ** 家庭のしつけとルール

**プログラム** 携帯電話やインターネットと親の対応②

**ねらい** SNSに夢中になる子どもの気持ちと親の対応について考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング <ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介</li> <li>仲間探し</li> </ul> 3 「3つの約束」の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;3つの約束&gt;           <ol style="list-style-type: none"> <li>一人一人が主役です</li> <li>お互いの意見を尊重しましょう</li> <li>ここだけの話にします</li> </ol> </div>
展開 (1) 20分	4 なぜSNSをするのかを考える。 <ol style="list-style-type: none"> <li>ラベルに記入する               <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px;">  子どもが好きな分野(ジャンル)は何かを思い出してみましょう。               </div> </li> <li>ラベルワークを行い、話し合う。               <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px;">  子どもたちの興味・関心を知りましょう。               </div> </li> </ol> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px;">  子どもたちは普段どんな様子ですか。           </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">             &lt;ワークショップ1(ラベルワーク)&gt;              子どもにとってSNSの魅力ってなあに?           </div> <p>例:</p> <p>「共通の話題で友達とつながれる」            「推し活の話題や情報収集ができる」            「新鮮な情報が手に入る」            「共有することで安心感が得られる」            「リアル動画など、短い時間で楽しめるコンテンツがある」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども理解に集中する。</li> <li>マイナス面にこだわらない。</li> <li>トレーナーは、SNSを視聴しているときの子どもの様子についても共有できるよう声掛けをする。</li> </ul>
展開 (2) 20分	5 子どもが受け止めやすい環境や、言葉かけについて考える。 <ol style="list-style-type: none"> <li>どんな声かけをしているか、現状について意見を交流する。               <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px;">  正直に、今子どもに掛けている言葉を出し合ってみましょう。               </div> </li> <li>感想を出し合い、どのような声かけや対応が効果的なのかを話し合う               <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px;">  気付いたことや、どのような声掛けが効果的か話し合いました。               </div> </li> </ol>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">             &lt;ワークショップ2(話し合い)&gt;              子どもが受け止めてくれる声掛けの仕方を考えよう。           </div> <p>例:</p> <p>「Wi-Fi切るよ!」「解約するよ!」など</p> <p>例:</p> <p>「SNSに熱中している最中にやめさせようとするよりも、冷静に話し合える時の方が効果的かもしれない」            「どういう使い方だったら納得できるか、子ども自身に聞いてみようと思う」            「SNSについて教えて」 など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現状の声掛けでは子どもが反発することに留意して、受け止めやすい声掛けを考える。</li> </ul>
まとめ 10分	6 まとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>ブックトーク</li> <li>今日の学習の感想や気付き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想はもとより、気付きある活動となるよう留意する。</li> </ul>

『【11-②-5】携帯電話とインターネットを親の対応②』

ワークシート

ワーク1 (ラベルワーク)

<課題>子どもがSNSに夢中になるのはなぜか考えよう。

メモ

ワーク2 (話し合い)

<課題>子どもが受け止めてくれる声掛けの仕方を考えよう。

メモ

<今日の学習の感想>







【プログラム II-②-6】

テーマ 家庭のしつけとルール

プログラム 思いやりのある行動

ねらい 子どもが思いやりのある行動がとれた時ととれなかった時の対応について考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・絵柄合わせ(仲間探し) 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 そもそも“思いやり”って何？ ① ラベルに記入する  “思いやり”ってどんなことだと思いますか。自分の考えをラベルに記入しましょう。 ② ラベルワークを行い、グループで話し合い発表してもらう  ラベルに書いたことを、一人ずつ説明しながら用紙に貼り付けていきましょう。	<ワークショップ1(ラベルワーク)> “思いやり”ってどんなことだと思っているかを改めて考えてもらう。 例：「他人の気持ちになって考え行動できる」 「思いやりとは共感力」 ・多様な考え方の声を聞き、改めて思いやりについて考えてもらう。
展開 (2) 20分	5 子どもが思いやりのある行動がとれた時ととれなかった時に子どもに対してどんな対応・声掛けをするかを考える。 ① ロールプレイングを行う  子ども役と親役に分かれて、ロールプレイングをしましょう。 ② 全グループがロールプレイングを発表する  代表のグループにロールプレイングを発表してもらいます。	<ワークショップ2(ロールプレイング)> 子： 学校から帰ろうとしていたら靴がなくて探している友達がいたんだ。 親： あら困ったわね。あなたはどうしたの？ ①子： 一緒に探してあげたよ。 ②子： そのまま帰ったよ。 ①・②に対する親の対応、声かけを考える。 ・思いやりの行動がとれなかった子どもに対して、親の気持ちはどうか。 ・本当は、どんな行動を子どもにとってほしかったのか。それをどう子どもに伝えるか。
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ(絵本や新聞投稿) ・今日の学習の感想  最後に「LOVE」と「やさしさとおもいやり」いう本を紹介します。  最後に新聞で見かけた児童の思いやりのある話を紹介します。	・「Love」(ジャン・ベルト ヴァンニ作 青山出版社) ・やさしさとおもいやり(宮西達也作絵 ポプラ社) ・児童の新聞投稿など(思いやりに関する) ・物語の登場人物の気持ちを想像させ、何かしら気づきや共感をもってもらう。 ・今日の学習の感想を書かせる。

## 『(11-②-6) 思いやりのある行動』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題> “思いやり” ってどんな事だと思っているか改めて考えましょう。

メモ

### ワーク2 (ロールプレイング)

<場面設定> 学校から帰ろうとしたら靴がなくて探している友達がいて…

①の場合の対応・言葉かけ

②の場合の対応・言葉かけ

<今日の学習の感想>






【プログラムⅡ-③-1】

**テーマ** 子どもの安全・健康

**プログラム** 子どもの安全について考えよう

**ねらい** 地域の中に潜む子ども達を取り巻くトラブルについて考え、子ども達を危険から守るための具体的な方策を考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・バースデーライン 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 地域の中に潜む子どもを取り巻くトラブルについて考える。 ① ラベルに記入する  <p>地域の中で、子どもが巻き込まれる可能性のあるトラブルには、どのようなものがあるか考え、ラベルに記入しましょう。</p> ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う  <p>一人ずつ書いたものについて説明しながら用紙に貼り付けましょう。出た意見を分類し、見出しをつけましょう。それぞれのグループで出た意見を発表してください。</p>	<ワークショップ1(ラベルワーク)> 地域の中で子どもが巻き込まれる可能性のあるトラブルには、どのようなものがあるでしょうか。 例：「交通事故」 「不審者による声かけ」 「近所の友達からの仲間はずれ」など ・グループで出た意見について発表してもらい、全体で共有する。 分類例：交通事故、犯罪、いじめなど
展開 (2) 20分	5 子ども達を危険から守るために自分たちにできることを考える。 ① ワーク2に記入する  <p>子どもをトラブルから守るために、私たちができることを考えましょう。参加者同士でできることを考えてもいいですよ。</p> ② グループ・全体で話し合う  <p>ワークショップ1で出た意見の中からテーマを1つ決めて、どんなことができるか話し合いましょう。参加者どうしてできることを話し合うのもいいですね。</p>	<ワークショップ2(話し合い)> 子ども達をトラブルから守るために、私たちにできることを考えましょう。 例：「犬の散歩を登下校の時間にしよう」 「土・日曜日に公園の遊具の点検をする」 「遅くまで遊んでいる子に声をかける」等 ・ワークショップ1で出てきた意見についてテーマを1つ決め、自分たちにできることについて話し合う。 ・グループで話し合ったことについて用紙に記入し、全体で発表する。
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  <p>最後に、「みぎ・ひだり・みぎ」という絵本を読みます。 子どもを危険から守るために、できることからやっていけるといいですね。</p>	・絵本「みぎ・ひだり・みぎ」(タナカヒロシ作、トニー鯨山絵、ベースボール・マガジン社)の読み聞かせを聞き、子どもの安全を守るための実践への意欲をもたせる。 ・「イカのおすし」についてふれてもよい。 ・今日の学習の感想を書かせる。

## 『(11-3-1) 子どもの安全について考えよう』ワークシート

### ワークシート1 (ラベルワーク)

<課題> 地域の中で子どもが巻き込まれる可能性のあるトラブルには、どのようなものがあるでしょうか。

メモ

### ワークシート2 (話し合い)

<課題> 子ども達をトラブルから守るために、私たちにできることを考えましょう。

テーマ

できること

<今日の学習の感想>




【プログラムⅡ-③-2】

**テーマ** 子どもの安全・健康

**プログラム** ゲームやテレビ、SNS視聴等以外の家庭での楽しみ方

**ねらい** 子どものゲームやテレビ、SNS等に使っている時間について振り返り、子どもとの時間をどう過ごすか考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	<p>1 テーマの説明</p> <p>2 アイスブレイキング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他己紹介</li> <li>・私の取扱説明書</li> </ul> <p>3 「3つの約束」の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;3つの約束&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 一人一人が主役です</li> <li>② お互いの意見を尊重しましょう</li> <li>③ ここだけの話にします</li> </ul> </div>
展開 (1) 20分	<p>4 ゲームやテレビ、SNSに使っている時間について、現状を共有する。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p>ご家庭でのお子さんの様子はご家庭でのお子さんの過ごし方を見て感じることを、班の皆さんで共有してみましょう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;ワークショップ1(グループワーク)&gt;</p> <p>ゲームやテレビ、SNSに使っている時間について、現状を共有しよう。</p> </div> <p>例：「SNSに費やす時間が多く不安」  「SNSで誰とつながっているか分からなくて不安」  「趣味の友達と繋がることができ、心のよりどころになっているようだ」  「ゲームやSNSにばかり集中しているので、もう少し家族で話せると良い」  「子どももSNSに夢中だが、自分も夢中になっているのでなんとも言えない」  など…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの現状と、それを見ている保護者の気持ちを共有することに重点を置く。</li> </ul>
展開 (2) 20分	<p>5 「30分ノーメディアにしたら何する？」を考える。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p>ゲームやテレビ、SNSなどのメディアがなかったとしたら、親子で何をしますか？</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>SNSなどのメディアがまだ当たり前でなかった時代でも楽しめた遊びはありませんか。</p>  </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;ワークショップ2(グループワーク)&gt;</p> <p>親子で取り組めることを考えよう。</p> </div> <p>例：オセロなどのボードゲーム  スポーツ  将来の夢などについて語り合う  散歩 など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「30分」については、時間の制約を設けた方が考えやすいかということで設定しているが、必ずしも「30分」でなくとも良い。</li> <li>・ノーメディアでも楽しめる遊びや活動に目を向ける。</li> <li>・親子の時間の過ごし方について、たくさんのアイデアを共有できるようにする。</li> </ul>
まとめ 10分	<p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実はゲームにも対象年齢があるって知っていますか？</li> <li>・手押し相撲などの簡単な遊び(実際にやってみるのもよい)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが夢中になるテレビやゲーム、SNS視聴については、注意することも大切かもしれないが、「他にも楽しいことがある」という視点を保護者自身がもてるようにする。</li> <li>・親子で過ごす時間の価値を感じ、保護者自身が積極的にそういった時間を持ちたいと感じられるようにする。</li> </ul>

## 「[II-③-2] テレビやゲーム、SNS視聴等以外の家庭での楽しみ方」ワークシート

### ワーク1 (グループワーク)

<課題> ゲームやテレビ、SNSに使っている時間について、現状を共有しよう。

メモ

### ワーク2 (グループワーク)

<課題> 親子で取り組めることを考えよう。

メモ

<今日の学習の感想>






【プログラムⅡ-④-1】

テーマ 子どもの個性と夢

プログラム 我が子のPR～短所も長所～

ねらい 子どもの長所や短所を見つめなおし、短所も肯定的に捉えながら自分の子どもの個性を考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・名刺作り 3 「3つの約束」の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;3つの約束&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 一人一人が主役です</li> <li>② お互いの意見を尊重しましょう</li> <li>③ ここだけの話にします</li> </ul> </div>
展開 (1) 25分	4 子どもの長所や短所について考え、子どもの個性を改めて見つめ直す。 ① ラベルに記入し、用紙に貼る  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;">             あなたのお子さんの長所や短所は何ですか。付箋に記入し、子どものイラストが描かれた用紙に貼り付けましょう。           </div> ② グループ・全体で話し合う <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;">             付箋に書いた子どもの長所や短所について説明しましょう。他の方は、相手のお子さんの短所を肯定的に捉え直してあげましょう。それをもとに自分のお子さんの個性を考えてみるとういいですね。           </div> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;ワークショップ1(ラベルワーク)&gt;              あなたのお子さんの長所や短所は何ですか。また、他の方は短所を肯定的な言葉で言い換えてあげましょう。</p> </div> <p>例：「どんな時でも笑顔を絶やしません」          「すぐに人のせいにします」          「怒りっぽい→自分の思いがある」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの長所や短所を付箋に書き、子どもの絵が書かれた用紙に貼ることで、子どもへの関心を可視化する。</li> <li>子どもの短所を肯定的に捉え直すことで、子どもの個性を認めるように促す。</li> </ul>
展開 (2) 15分	5 子どもの個性を見つめ直す活動を受けて、我が子のPR文を考える。 ① ワーク2に記入する  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;">             子どもの個性をもとに、PR文を書いて発表しましょう。他の方に、短所を言い換えてもらった言葉を参考にしてPR文を書くとういいですね。           </div> ② グループ・全体で話し合う <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;">             グループや全体でPR文の情報交換することで、互いに親の願いを共有できますね。書いたPR文は後日、お子さんに読んであげるといいですね。           </div> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;ワークショップ2(話し合い)&gt;              子どもの個性をもとに、PR文を書きましょう。</p> </div> <p>例：「私の子どもは落ち着きがありません。しかし、いろいろなことに興味があり、活動的だと言えます。」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他の親に短所を言い換えてもらった言葉を参考にしながらPR文を書く。</li> <li>グループや全体でPR文の情報交換することで互いに親の願いを共有する。</li> <li>書いたPR文は後日、我が子に読んであげるように促す。</li> </ul>
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;">             最後に、「おこだでませんように」という絵本を読みます。お子さんの長所や短所を見つめ直し、新たな気持ちでお子さんに接していけるといいですね。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本「おこだでませんように」(くすのきしげのり作、石井聖岳絵、小学館)の読み聞かせを聞き、子どもの個性を肯定的に捉えることの大切さに気付かせる。</li> <li>今日の学習の感想を書かせる。</li> </ul>

## 『【II-④-1】我が子のPR～短所も長所～』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題>あなたのお子さんの長所や短所は何ですか。また、他の方は短所を肯定的な言葉で言い換えてあげましょう。

メモ

### ワーク2 (話し合い)

<課題>子どもの個性をもとに、PR文を書きましょう。

<今日の学習の感想>

【プログラムⅡ-④-2】

**テーマ** 子どもの個性と夢

**プログラム** 応援したい！子どもの夢や希望

**ねらい** 子どもがもっている将来の夢や希望、親自身の子どもの将来への希望を情報交換する活動を通して、親の子どもへの思いや願いを本音で共感し合う。

<展開（60分）>

時間	展開（進行マニュアル）	展開のポイント
導入 10分	<p>1 テーマの説明</p> <p>2 アイスブレイキング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介</li> <li>・後出しジャンケン</li> </ul> <p>3 「3つの約束」の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;3つの約束&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 一人一人が主役です</li> <li>② お互いの意見を尊重しましょう</li> <li>③ ここだけの話にします</li> </ul> </div>
展開 (1) 20分	<p>4 子どもがもっている将来への夢や希望について話し合う。</p> <p>① ワーク1に記入する</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お子さんがもっている将来への夢や希望は何ですか。 自分の考えをワーク1に記入しましょう。</p> </div> <p>② グループ・全体で話し合う</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お子さんが将来の夢や希望をまだもっていない場合や、皆さんがご存じでない場合は、お子さんの長所を教えてください。 自分が子どもの頃の将来の夢や希望でもいいです。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;ワークショップ1（話し合い）&gt;</p> <p>お子さんがもっている将来への夢や希望は何ですか。</p> </div> <p>例：「人の役に立つ仕事に就きたいようです」「子どもの面倒をみるのが好きなようです」「看護師になりたいようです」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが将来の夢や希望をまだもっていない場合や、親が知らない場合は、子どもの長所を言ってもらおう。</li> </ul>
展開 (2) 20分	<p>5 我が子の将来について、自分がどんな思いや願いをもっているか考える。</p> <p>① ラベルに記入する</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>皆さんは、お子さんの将来について、どんな思いや願いをもっておられますか。 お子さんの夢や希望と違ってでもいいですので、思っていることを正直に書いてくださいね。</p> </div> <p>② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>子どもへの思いや願いを等身大の子どもの絵が書かれた模造紙に貼りましょう。頭、心臓、手、足など、等身大の子どもの絵のどの場所に貼られたラベルが多いでしょうか。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;ワークショップ2（ラベルワーク）&gt;</p> <p>あなたは、お子さんの将来について、どのような思いや願いをもっていますか。</p> </div> <p>例：「健康で、人並みに働いてくれればいい」「自分の夢を叶えてほしい」「地元に残って一緒に働いてほしい」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの夢や希望と違ってでもいいので、できるだけ親の本音を引き出す。</li> <li>・子どもへの思いや願いをラベルに書き込み、等身大の子どもの絵が描かれた模造紙（頭、心臓、手、足など）に貼ることで、子どもへの思いや願いを可視化する。</li> <li>・グループや全体で情報交換することで、お互いの親の思いや願いを共有する。</li> </ul>
まとめ 10分	<p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックトーク</li> <li>・今日の学習の感想</li> </ul> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>最後に、「ぼくのしょうらいのゆめ」という本を読みます。 お子さんの将来の夢や希望に寄り添いながらも、皆さんの思いや願いを伝えられるといいですね。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぼくのしょうらいのゆめ」（野口聡一他作、プチプラパブリッシング）のブックトークを聞き、子どもがもっている将来への夢や希望に寄り添うことのよさに気付かせる。</li> <li>・今日の学習の感想を書かせる。</li> </ul>

## 『【11-④-2】応援したい！子どもの夢や希望』ワークシート

### ワーク1（話し合い）

<課題> お子さんがもっている将来への夢や希望は何ですか。

### ワーク2（ラベルワーク）

<課題> あなたはお子さんの将来について、どんな思いや願いをもっていますか。

メモ

<今日の学習の感想>

【プログラムⅡ-⑤-1】




**テーマ** 学校や地域とのかかわり

※このプログラムはⅡ-⑤-2と一緒に取り組むことをおすすめします。

**プログラム** 子どもとともに地域で自然と遊ぼう

**ねらい** 自分が子どもの頃にしたい自然体験や、子どもにさせたい自然体験について話し合うことを通して、子どもの成長にどのような自然体験が必要かを考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・リレー自己紹介 ・手遊び歌 3 「3つの約束」の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;3つの約束&gt;            ① 一人一人が主役です            ② お互いの意見を尊重しましょう            ③ ここだけの話にします         </div>
展開 (1) 20分	4 子どもに自然体験をさせることのよさについて考える。 ① ラベルに記入する  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">             子どもに自然体験をさせることのよさについて考え、付箋に記入しましょう。           </div> ② ラベルワークを行い、グループで話し合う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">             付箋に書いたことを一人ずつ説明しながら用紙に貼り付けていきましょう。同じものがあたら、近くに貼り付けて分類しましょう。           </div> ③ 全体で話し合う	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;ワークショップ1(ラベルワーク)&gt;            子どもに自然体験をさせることは、どのようなよさがあるでしょうか。         </div> <p>例：「道具の使い方を覚える」          「家族との絆を深める」          「動植物を大切にする」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が子どもの頃に体験したことを思いだし、その自然体験が心に残っている理由や、その体験を通してどのようなことを学んだかについて話し合ってもよい。</li> </ul>
展開 (2) 20分	5 子どもにさせたい自然体験について考える。 ① ワーク2に記入する  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">             子どもにさせたい自然体験をワークに記入し、その理由も考えましょう。           </div> ② グループで話し合う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">             グループで子どもにさせたい自然体験について話し合いましょう。後で、どのような話し合いがなされたか発表してもらうので、発表する人を決めておきましょう。           </div> ③ 全体で話し合う	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;ワークショップ2(話し合い)&gt;            子どもにさせたい自然体験について考え、その理由を話し合いましょう。         </div> <p>例：「昆虫を採って育てさせたい」          「野菜を育てて収穫し、料理をさせたい」          「川や海で遊ばせたい」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもにさせたい理由や、その体験のよさについて話してもらう。</li> <li>グループでの話し合いの概要を発表し、全体で共有する。</li> </ul>
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">             最後に、「びっくりまつぼっくり」という絵本を読みます。お子さんの成長のためにも、親子一緒に自然体験をおこなっていいですね。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本「びっくりまつぼっくり」(多田多恵子文、堀川理万子絵、福音館書店)の読み聞かせを聞き、子どもと自然体験をすることへの意欲をもたせる。</li> <li>今日の学習の感想を書かせる。</li> </ul>

## 「(11-⑤-1)子どもとともに地域で自然と遊ぼう」ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題>子どもに自然体験をさせることは、どのようなよさがあるでしょうか。

メモ

### ワーク2 (話し合い)

<課題>子どもにさせたい自然体験について考え、その理由を話し合みましょう。

<今日の学習の感想>

【プログラムⅡ-⑤-2】






**テーマ** 学校や地域とのかかわり

※このプログラムはⅡ-⑤-1と一緒に取り組むことをおすすめします。

**プログラム** 社会体験で地域とつながろう

**ねらい** 自分が子どもの頃にしたい社会体験や、子どもにさせたい社会体験について話し合うことを通して、子どもの成長にどんな社会体験が必要かを考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・手遊び歌 3 「3つの約束」の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;3つの約束&gt;            ① 一人一人が主役です            ② お互いの意見を尊重しましょう            ③ ここだけの話にします         </div>
展開 (1) 20分	4 自分が子どもの頃にしたい社会体験を紹介する。 ① ラベルに記入する  <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-left: 20px;">             自分が子どもの頃にしたい社会体験で心に残っていることを3つ紹介しましょう。自分の考えをラベルに記入しましょう。           </div> ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-left: 20px;">             社会体験の思い出がない方は、子どもの頃の地域の方とのふれあいなどを紹介してください。心に残っている理由や、その体験を通してどんなことを学んだかについても話しましょう。              </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;ワークショップ1(ラベルワーク)&gt;            自分が子どもの頃にしたい社会体験で心に残っていることを3つ紹介しましょう。         </div> <p>例：「地域の十五夜で相撲をとった」          「PTAでナイトウォークをした」          「子ども会でボランティアをした」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会体験の思い出がない方は、子どもの頃の地域の方とのふれあいなどを紹介してもらおう。</li> <li>心に残っている理由や、その体験を通じてどんなことを学んだかについて話してもらおう。</li> </ul>
展開 (2) 20分	5 子どもにさせたい社会体験について考える。 ① ワーク2に記入し、ランキングを行う  <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-left: 20px;">             子どもにさせたい社会体験を出し合い、各グループのベスト3を選び、紹介しましょう。子どもにさせたい理由や、その体験のよさについても考えましょう。           </div> ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-left: 20px;">             グループで3つに絞れない時や、順位を付けられない時は、そのまま紹介してもいいですよ。実際にお子さんと一緒に体験されたことがあったら、紹介してくださいね。              </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;ワークショップ2(ランキング)&gt;            子どもにさせたい社会体験を出し合い、各グループのベスト3を選び、紹介しましょう。         </div> <p>例：「地域の敬老会の出し物」          「PTAの清掃活動」          「子ども会のリーダー研修」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもにさせたい理由や、その体験のよさについても話してもらおう。</li> <li>グループで3つに絞れない時や順位を付けられない時は、そのまま紹介してもらおう。</li> </ul>
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-left: 20px;">             最後に、「ウエズレーの国」という絵本を読みます。お子さんの成長のためにも、親子一緒にボランティアなどの社会体験をやっていきましょう。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本「ウエズレーの国」(ポール・フライシュマン作、ケビン・ホークス絵 あすなろ書房)の読み聞かせを聞き、子どもと社会体験をすることへの意欲をもたせる。</li> <li>今日の学習の感想を書かせる。</li> </ul>

## 『【11-⑤-2】社会体験で地域とつながろう』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

＜課題＞自分が子どもの頃にした社会体験で心に残っていることを3つ紹介しましょう。

メモ

①

②

③

### ワーク2 (ランキング)

＜課題＞子どもにさせたい社会体験を出し合い、各グループのベスト3を選び、紹介しましょう。

ベスト1

ベスト2

ベスト3

＜今日の学習の感想＞





【プログラムⅡ-⑤-3】

**テーマ** 学校や地域とのかかわり

**プログラム** 先生といっしょに子どもを育てよう

**ねらい** 学校の先生の立場や考え方を理解・共有し、同じ歩調で子どもを育てようとする。

＜展 開（60分）＞

時間	展 開（進行マニュアル）	展開のポイント
導入 10分	<p>1 テーマの説明</p> <p>2 アイスブレイキング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間探し</li> <li>・名刺作り</li> </ul> <p>3 「3つの約束」の確認</p>	<p>・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜3つの約束＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 一人一人が主役です</li> <li>② お互いの意見を尊重しましょう</li> <li>③ ここだけの話にします</li> </ul> </div>
展開 (1) 20分	<p>4 先生と保護者の立場の違いを考える。</p> <p>① ワークシートに記入する</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>先生の職務上の立場や思い・考え、保護者に対する願いを考えてみましょう。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>保護者の立場や思い・考え、先生に対する願いを考えてみましょう。</p>  </div> <p>② ラベルワークを行い、グループで先生と保護者の考えの違いを話し合う</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜ワークショップ1（ラベルワーク）＞</p> <p>先生と保護者の立場の違いを考えましょう。</p> </div> <p>例：先生</p> <p>「たくさん子どもたちに平等に接する」  「みんなに成長してもらいたい」  「個人差にも対応しなければならない」  「多忙である」</p> <p>例：保護者</p> <p>「自分の子どもの成長を願う」  「自分の子どもにたくさん関わってもらいたい」</p>
展開 (2) 20分	<p>5 先生とのよりよい関係づくりについて具体例をもとに考える。</p> <p>① グループで話し合う</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>具体例をもとに保護者のよりよい相談の仕方をグループで考えましょう。対応後の成果と問題点も併せて考えましょう。</p> </div> <p>② 全体で話し合う</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>グループで考えた対応、成果、問題点を発表し合い、よりよい関係づくりについての考え方を深めましょう。</p>  </div> <p>※ 教師の勤務時間の実態や保護者との対応に苦慮していること、学校の公的な立場等にもふれるようにする</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜ワークショップ2（話し合い）＞</p> <p>先生とのよりよい関係づくりについて考えましょう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>具体例：N先生は、24才の体育大学新卒の男性教師である。Y子は、N先生のことは好きであるが、体育嫌いで、特に鉄棒が大の苦手である。月曜日の体育の時間に、Y子が逆上がりができなかったところ、N先生に重点的に指導され、手にまめができるまでがんばったが、できなかった。火曜日から元気がなかったY子であったが、水曜日の朝、とうとう「学校に行きたくない」と母親に訴えた。Y子によると、N先生の指導は、ありがたいし、逆上がりができるようにはなりたいたのだが、体育大卒業のN先生の指導法が大変厳しく、専門的な指導のため、ついていくことができず、体力的にも限界であるとのことであった。しばらくは、鉄棒はしたくないと訴えた。母親は、Y子の訴えを聞き、N先生に相談に行くことにした。</p> </div> <p>・あくまでも具体例をもとに話し合い、現実的な話題にならないようにする。特に教師批判にならないように配慮して進行する。</p>
まとめ 10分	<p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きょうの学習の感想発表</li> </ul>	<p>・学習の感想を発表することにより、これからの先生と保護者との連携・協力について、あらためて考える。そのことがひいては子どもの健やかな成長につながることをおさえる。</p>

## 『[11-⑤-3]先生といっしょに子どもを育てよう』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題>先生の立場と保護者の立場の違いを考えよう。

先生の立場

保護者の立場

### ワーク2 (話し合い)

<課題>次の事例について保護者はどのように先生に相談すればよいかを考えよう。

具体例：N先生は、24才の体育大学新卒の男性教師である。Y子は、N先生ことは好きであるが、体育嫌いで、特に鉄棒が大の苦手である。月曜日の体育の時間に、Y子が逆上がりができなかったところ、N先生に重点的に指導され、手にまめができるまでがんばったが、できなかった。

火曜日から元気がなかったY子であったが、水曜日の朝、とうとう「学校に行きたくない」と母親に訴えた。Y子によると、N先生の指導は、ありがたいし、逆上がりができるようにはなりたいのだが、体育大卒業のN先生の指導法が大変厳しく、専門的な指導のため、ついていくことができず、体力的にも限界であるとのことであった。しばらくは、鉄棒はしたくないと訴えた。

母親は、Y子の訴えを聞き、N先生に相談に行くことにした。

メモ

<今日の学習の感想>

【プログラムⅡ-⑥-1】

テーマ 心の痛みに寄り添う

プログラム名 子どもの心に寄り添う

ねらい 心を痛めている子どもへの関わり方について考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスプレイング ・だまし絵 3 「3つの約束」の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の緊張をほぐし、円滑な話し合いが出来る雰囲気をつくる。</li> <li>「3つの約束」を確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ① 一人一人が主役です。            ② お互いの意見を尊重しましょう。            ③ ここだけの話にします。         </div>
展開 (1) 20分	4 子どもが心を痛めているときのサインについて、グループで考える。 ① ラベルに記入する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             子どもが心を痛めているときのサインにはどんなものがあるか考え、ラベルに記入しましょう。           </div> ② グループや全体で話し合う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             一人ずつ書いたものについて説明しながら用紙に貼り付けましょう。出た意見を分類し、見出しをつけましょう。           </div> それぞれのグループで出た意見を発表してください。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             &lt;ワーク1(ラベルワーク)&gt;              子どもが心を痛めているときのサインにはどんなものがあるでしょうか。           </div> 例：「食欲がない」「私物がなくなる」「兄弟に手を出す」「衣類が汚れる」「けがをして帰ってくる」「学校に行きたがらない」「暴言をまく」等 <ul style="list-style-type: none"> <li>サインによってグループ分けをする。</li> </ul> 分類例①：家庭内、家庭外 分類例②：すぐ分かるもの(表面に出ている)、注意してみないと分からないもの(表面に出していない)
展開 (2) 20分	5 サインを出している子どもにどう寄り添っていかかを、グループで考える。 ① ラベルに記入する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             サインを出している子どもにどんな寄り添い方をしていくか考えましょう。           </div> ② グループや全体で話し合う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             どんなことができるか話し合いましょう。参加者どうしでできることを話し合うのもいいですね。           </div> それぞれのグループで出た意見を発表してください。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             &lt;ワーク2(ラベルワーク)&gt;              サインを出している子どもにどんな寄り添い方をしていくか考えましょう。           </div> ○家庭内で出ているサイン 例：「食欲がない子どもに対する言葉かけ」 体調が悪いの？おなかいっぱいなの？と声かけをして子どもの話を聞いてあげる。 ○家庭外で起きている事でのサイン 例：「私物がなくなっている子どもに対する言葉かけ」 いつなくなったの？困ったね・・・と、物がなくなってしまった事への困りに共感する。無くしてしまったのではなく無くなった事への困りや、悲しみに寄り添いながら傾聴する。
まとめ 10分	6 まとめ ・振り返り <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">             いじめられているかもしれない・・・              子どもはカタチを変えてサインを出してきます。はじめに見た絵の見え方が違うように、子どもも、受け取り方や表現するカタチが違います。もし、いじめられているサインであれば、寄り添ってあげる事が困っている子どもを救う手段の一つとなります。           </div> ・今日の学習の感想	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             【トレーナーの促しとして】           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもへの言葉のかけ方を共有する。</li> <li>子どもの話をしっかりと聞いてあげることの大切さを学ぶ。</li> <li>傾聴することで話せる安心感を与えることができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日の学習の感想を書かせる。</li> </ul>

## 「11-⑥-1」子どもの心に寄り添う」ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題>子どもが心を痛めているときのサインにはどんなものがあるでしょうか。

メモ

### ワーク2 (ラベルワーク)

<課題>サインを出している子どもにどんな寄り添い方をしていくか考えましょう。

メモ

<今日のワークを実施し、今後、どう子どもに寄り添っていきたいですか？>

<今日の学習の感想>





【プログラムⅡ-⑥-2】

**テーマ** 心の痛みに寄り添う

**プログラム** 差別を考えよう

**ねらい** 子どもが差別につながる言動をしたときの関わり方について考える。

<展 開 (60分) >

時間	展 開 (進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・仲間探し ・自己紹介 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 「何気ない差別」について話し合う。 ① ワーク1に記入する  「よく考えずにしている差別」とはどんなことでしょうか？子どもの言動だけでなく、自分の考えをワーク1に記入しましょう。 ② グループで話し合う  グループ内の皆さんの考えを聞いて、感じたことを話し合しましょう。後で、グループの代表の方に発表してもらいます。 ③ 全体の場で発表する	<ワークショップ1 (話し合い)> 「よく考えずにしている差別」ってどんなことでしょう。 ・気付いていないだけ、自覚していないだけで、いつの間にか差別していることについて考える。 例：「兄弟で比べてしまう」「女の子なのに字が汚い」「男の子なのに泣いてばかり」「お父さん、明日お弁当の日ですけど大丈夫ですか？」「女性で出世するってすごいね！」「〇〇人のハーフなら足速そう」など ・個人で考える時間を取った後、グループで話し合い、身近に「よく考えずにしている差別」があることに気づく。
展開 (2) 20分	パターンA 5 子どもが差別につながる言動をしたときの関わり方について考える。 ① ワーク2に記入し、ロールプレイングを行う  子ども役と親役に分かれて、ロールプレイングをしましょう。気づいたことを後で話し合しましょう。 ② 全体の場で発表する	<ワークショップ2 (ロールプレイング)> 「今度のリレー大会、〇〇くんと一緒だけど男子なのに足が遅いんだよね」と話した時。 例：「〇〇くんも頑張ると思うよ。」 「男の子だから足が速いとは限らないよ。」 ・話し合いでは、ロールプレイングを見た感想だけでなく、これまでの関わり方についても振り返らせる。
	パターンB 5 子どもから差別につながる言動について相談されたときの関わり方について考える。 ① ワーク2に記入し、ロールプレイングを行う  子ども役と親役に分かれて、ロールプレイングをしましょう。気づいたことを後で話し合しましょう。 ② 全体の場で発表する	<ワークショップ2 (ロールプレイング)> 「AさんがBさんに、〇〇〇(あだな)と言っているんだよ。Bさんはすごく気にしていて、周りの人も笑っているんだよ。どうしよう。」 例：「Bさんは気にしているんだね。〇〇〇という言葉が言われたらどんな気持ちになる？」 「Bさんはどんな様子だった？」 ・話し合いでは、ロールプレイングを見た感想だけでなく、これまでの関わり方についても振り返らせる。
まとめ 10分	6 まとめ ・家庭教育手帳からの引用文紹介 ・今日の感想	・「差別をしない偏見をもたない子どもに育てるために」(文部科学省 家庭教育手帳)を聞き、親自身の姿勢に気付かせる。 ・今日の学習の感想を書かせる。

## 「11-⑥-2」 「差別を考えよう」 ワークシート

### ワーク1 (話し合い)

<課題> 「よく考えずにしている差別」 ってどんなことでしょう。

### ワーク2 (ロールプレイング) パターンA

<場面設定> 子どもがリレー大会の同じチームの子について話してきた時。

<子ども> 「今度のリレー大会、〇〇くんと一緒だけど男子なのに足が遅いんだよね」



### ワーク2 (ロールプレイング) パターンB

<場面設定> 子どもがあだ名のついてる子について話してきた時。

<子ども> 「AさんがBさんに、〇〇〇 (あだ名) と言っているんだよ。Bさんはすごく気にしていて、周りの人も笑っているんだよ。どうしよう。」



<上記のような場面に限らず、これまでの関わり方について振り返りましょう。>

<今日の学習の感想>

【プログラム II-⑦-1】

**テーマ** 子育て仲間づくり

**プログラム** 子育ての悩みを語り合おう

**ねらい** 子育てに関する悩みを、お互いに伝え合いながら、子どもとの関わりについて考え、相談できる仲間づくりにつなげる。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	<p>1 テーマの説明</p> <p>2 アイスブレイキング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生日チェーン</li> <li>・自己紹介</li> </ul> <p>3 「3つの約束」の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;3つの約束&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 一人一人が主役です</li> <li>② お互いの意見を尊重しましょう</li> <li>③ ここだけの話にします</li> </ul> </div>
展開 (1) 20分	<p>4 子育てに関する悩みについて、お互いに伝え合い、子どもとの関わりについて考える。</p> <p>① ラベルに記入する</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>子育てに関する悩みについて、どんなことがあるか考えましょう。</p> </div> <p>② ラベルワークを行い、グループで話し合い発表する</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>グループで説明しながら用紙に貼り付けましょう。出た意見を分類し、話し合いました。</p> </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>&lt;ワークショップ1(ラベルワーク)&gt;</p> <p>子育てに関する悩みについて、どんなことがあるか考える。</p> </div> <p>例：「子どもが言うことを聞かない。」 「しつけの仕方がわからない。」 「怒鳴ることが多くて、ほめることが少ない。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出た意見を分類し、話し合う。</li> </ul>
展開 (2) 20分	<p>5 子育ての悩みをかかえこまないためにどうするかを話し合う。</p> <p>① ワークシートに記入する</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>子育ての悩みをかかえこまないようにするために、できることをワーク2に書きましょう。</p> </div> <p>② グループで話し合う</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>グループでどんなことができるか話し合いました。</p> </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>&lt;ワークショップ2(話し合い)&gt;</p> <p>子育ての悩みをかかえこまないようにするために、できることを話し合う。</p> </div> <p>例：「完璧を目指さない。」 「比べずに自分らしく育てる。」 「子育てを相談できる仲間とつながる。」 「家庭教育学級などの学びに参加する。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で気を付けることだけでなく、相談できる仲間づくりについても考えてもらう。</li> <li>・家庭教育学級などの学びの場があることを紹介する。</li> </ul>
まとめ 10分	<p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ</li> <li>・今日の学習の感想</li> </ul> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>最後に「おおきなかぶ」を読みます。一緒につながると大きな力になることに気づき、子育ての仲間づくりができるといいですね。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本「おおきなかぶ」(ロシア昔話 福音館書店)を聞いて一緒につながると大きな力になることに気づき、子育ての仲間づくりへの意欲をもたせる。</li> <li>・様々な力が一緒になって、大きな力になる。子育ても様々な人が仲間となって力を合わせると楽しくなることに気付かせる。</li> <li>・今日の学習の感想を書かせる。</li> </ul>

## 『(11-①-1) 子育ての悩みを語り合おう』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

＜課題＞子育てに関する悩みについて、どんなことがあるか考えましょう。

メモ

### ワーク2 (話し合い)

＜課題＞子育ての悩みをかかえこまないようにするために、できることを話し合しましょう。

メモ

＜今日の学習の感想＞

【Ⅱ-⑦-2】 テーマ：子育て仲間づくり プログラム：「子育てすごろく」にチャレンジ

スタート



好きな食べ物は何？	好きな芸能人は？	今一番行ってみたいところは？	グループの人と握手しよう	今、気になるニュースは？
幸せを感じるときは？	今日の晩ご飯はなにがいい？	今、一番やりたいことは？	夜、どうやって子どもを寝かしつける？	好きなテレビ番組は？
朝、どうやって子どもを起こす？	ストレス発散法は？	歌を歌うのと聴くの、どっちが好き？なぜ？	子どもの頃の夢、または思い出は？	実は私○○○なんです！
子どものことで嬉しかったことは？	わが子のいい所3つ☆	子どものお昼ごはんは？	宝くじが当たったら？	最近どんなことで子どもをほめた？
あなたが頑張っていると思うことは？	子ども(家族)に一番言いたいことは？	苦手な食べ物は何？	ラッキー☆☆☆ (3マス) 進む	ラッキー☆☆☆ (3マス) 進む



ゴール

教えて！パートIII

わが子のいい所3つ☆

ラッキーチャンス☆

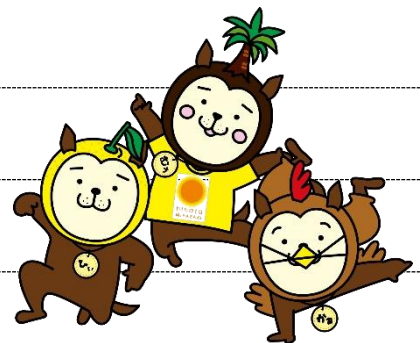
誰かが「止まったら、他の人も話せるよ！話をした人は全員2マス進めるよ！」

みんなでハイタッチ！

教えて！パートI

子どもと行けるおすすめスポット

A large rectangular area with a solid black border and horizontal dashed lines, serving as a writing template.








【プログラムⅢ-①】

**テーマ** 親の立場の理解

**プログラム** 子どもの気持ちと親の気持ち

**ねらい** 子どもに注意をする親の気持ちを話し合ったり、親子の会話をロールプレイングで体験したりすることで、親子がお互いに理解し合える会話について考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・たましいの握手 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 親によく注意されることと、その理由について考える。 ① ラベルに記入する  親によく注意されることはどんなことですか。また、それはどうしてでしょうか。 ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う  意見を、時間、食事、言葉遣いなどのカテゴリーで分けましょう。皆さんのお父さんやお母さんは、どんな気持ちで皆さんに注意をしているのでしょうか。	<ワークショップ1(ラベルワーク)> 親によく注意されることは何ですか。その理由は何でしょう。 例：「〇時までには必ず帰ってきなさい。」 「だらだらしていないで勉強しなさい。」 「言葉遣いに気をつけなさい。」など ・意見を、時間、食事、言葉遣いなどのカテゴリーに分けた後で、話し合う。 ・その時の親の気持ちを想像させ、親の立場を理解させる。
展開 (2) 20分	5 注意や忠告をする際に、親子がお互いに理解し合える会話について考える。 ① ワーク2に記入し、ロールプレイングを行う  注意された時に、親子がお互いに理解し合える会話について考えましょう。場面設定については、事前にペアで話し合って決めてください。 ② グループ・全体で話し合う  他のペアの方のロールプレイングを見て、どうでしたか。これまでの自分を振り返り、親への対応について考えてみましょう。	<ワークショップ2(ロールプレイング)> 親が自分に〇〇〇〇のことで注意してきた時。 例：「頭ごなしに怒らないで話を聞いてよ。」 「いつも心配してくれて、ありがとう。」 「早めに連絡しなくてごめん。」など ・注意する内容については、事前にペアで話し合って決める。 ・グループ内で、子ども役と親役に分かれてロールプレイをする。 ・ロールプレイ時の互いの立場について話し合い、親子が理解し合える効果的な会話について考える。
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  最後に、「おやおやじゅくへようこそ」という絵本を読みます。親子でお互いの思いを理解し合えるようになれるといいですね。	・絵本「おやおやじゅくへようこそ」(浜田桂子作、ポプラ社)の読み聞かせを聞き、子どもを思う親の気持ちに気付かせる。 ・今日の学習の感想を書かせる。

## 『Ⅲ-①』子どもの気持ちと親の気持ち』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題> 親によく注意されることは何ですか。またその理由は何でしょう。

メモ

### ワーク2 (ロールプレイング)

<場面設定> 親が自分に〇〇〇〇のことで注意してきた時。

<親役> (例) 「最近、寝てばかりで、ぜんぜん勉強してないじゃないの。」



<子ども役>

<これまでの自分を振り返り、親への対応について考えてみましょう。>

<今日の学習の感想>






【プログラムⅢ-②】

**テーマ** 家族の一員として

**プログラム** 家事・育児は誰の仕事ですか

**ねらい** 家事や育児についての考え方や分担の仕方について意見を交換し、家族の一員としての協力の在り方について考える。

<展 開 (60分) >

時間	展 開 (進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・キャッチ 3 「3つの約束」の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;3つの約束&gt;            ① 一人一人が主役です            ② お互いの意見を尊重しましょう            ③ ここだけの話にします         </div>
展開 (1) 20分	4 どんな家事や育児があるか、また、家事や育児の分担の仕方について考える。 ① ワーク1に記入する  <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">             皆さんの家庭には、どのような家事や育児がありますか。また、それは誰の役割ですか。           </div> ② グループ・全体で話し合う <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">             皆さんのご家庭には、具体的にどんな家事や育児があるでしょう。グループに紹介し、皆さんで共有しましょう。           </div> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;ワークショップ1 (ラベルワーク)&gt;            それぞれの家庭には、どんな家事や育児がありますか。また、その分担について考えてみましょう。         </div> <p>例：「お風呂掃除」「トイレ掃除」          「お風呂の準備」「料理」          「妹の勉強の世話」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの家庭によって色々な仕事や役割があることに気付く。</li> </ul>
展開 (2) 20分	5 「家事や育児は〇〇の仕事」という考え方について考える。 ① ワーク2に記入する  <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">             「家事や育児は〇〇の仕事」という考え方についてどう思いますか。将来家庭をもった時の家事や育児の分担の仕方について考えてみましょう。           </div> ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">             家族の一員として、助け合う役割分担について考えてみましょう。           </div> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;ワークショップ2 (ラベルワーク)&gt;            「家事や育児は〇〇の仕事」という考え方についてどう思いますか。また、将来家庭をもった時の家事や育児の分担について考えてみましょう。         </div> <p>例：「家事や育児の役割に偏りがある。」          「家族を思いやり、助けてやりたい。」          「感謝の気持ちを持ちたい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家族の一員として思いやりの心を持ち、家事や育児の分担の仕方について振り返ろう。</li> </ul>
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・ワークシートへの記入  <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">             最後に、「おんぶはこりごり」という絵本を読みます。              将来家庭をもった時、夫婦で協力して家事や育児ができるといいですね。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本「おんぶはこりごり」(アンソニー・ブラウン作、平凡社)の読み聞かせを聞き夫婦で協力して育児をすることの大切さに気付かせる。</li> <li>家族の一員として助け合う役割分担についてワークシートへ記入させる。</li> </ul>

## 『【Ⅲ-②】家事・育児は誰の仕事ですか』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題>それぞれの家庭には、どんな家事や育児がありますか。また、その分担について考えてみましょう。

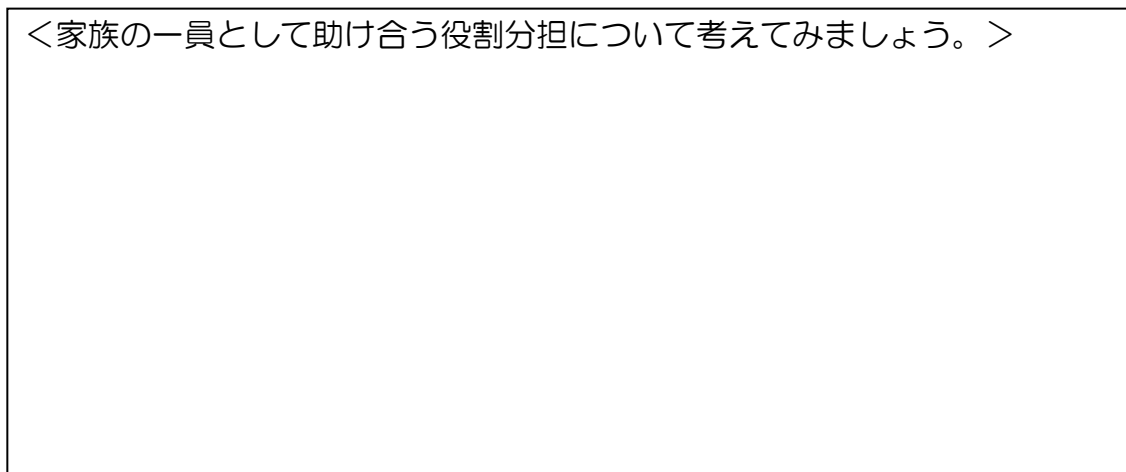


### ワーク2 (ラベルワーク)

<課題>「家事や育児は〇〇の仕事」という考え方についてどう思いますか。将来家庭をもった時の家事や育児の分担の仕方について考えてみましょう。



<家族の一員として助け合う役割分担について考えてみましょう。>








【プログラムⅢ-③】

テーマ 大人としての自立

プログラム 働くことについて考えよう

ねらい 自分が将来就きたい職業や働くことの目的や意義についての話し合いを通して、自立した大人について考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・聖徳太子ゲーム 3 「3つの約束」の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;3つの約束&gt;            ① 一人一人が主役です            ② お互いの意見を尊重しましょう            ③ ここだけの話にします         </div>
展開 (1) 20分	4 どんな職業があって、その職業にはどんな資質や能力が必要か考える。 ① ラベルに記入する  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">             皆さんの身の回りには、どのような職業があるかを考えてみましょう。           </div> ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">             皆さんから出された職業をカテゴリーごとに分けましょう。そして、そのカテゴリーごとにどんな資質や能力が必要か考えてみましょう。           </div> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;ワークショップ1(ラベルワーク)&gt;            自分の身の回りにはどんな職業があってその職業にはどんな資質や能力が必要でしょうか。         </div> <p>例：「保育士」「警察官」「弁護士」「農業」「商業」「アパレル」「畜産業」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働くために必要な資質や能力とは何かを考える。</li> <li>今の自分を振り返り、何が足りないか、これから何を身に付けなければいけないかを考える。</li> </ul> <p>カテゴリー例：何・誰を対象にする職業か？資格が必要な職業か？など</p>
展開 (2) 20分	5 働くことの目的や意義について考える。 ① ラベルに記入する  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">             人はなぜ働くのでしょうか。自分のため、人のため、社会のためなど様々な観点で考えてみましょう。           </div> ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">             あなたの将来の夢や仕事について考えてみましょう。           </div> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;ワークショップ2(ラベルワーク)&gt;            人はなぜ働くのでしょうか。自分のため、人のため、社会のためなど様々な観点で考えてみましょう。         </div> <p>例：「自分や家族が生きていくため」「地域全体で支え合うため」「自分の生きがいができる」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意見を、自分、家族、社会、世界などのカテゴリーに分けて、働くことの目的や意義を視覚的につかませる。</li> <li>将来の夢や仕事について考えさせる。</li> </ul>
まとめ 10分	6 まとめ ・ブックトーク ・今日の学習の感想  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">             最後に、「みやざきわくわくわくワーク」と情報誌を紹介します。直接、様々な職業の方から話を聞いたり、情報誌を読んだりしてくわしく調べてみましょう。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みやざきわくわくわくワーク」(ヤングJ OBサポートみやざき)のブックトークを聞き、大人になって働くことの喜びに気付かせる。</li> <li>今日の学習の感想を書かせる。</li> </ul>

## 『【Ⅲ-③】働くことについて考えよう』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

〈課題〉皆さんの身の回りには、どのような職業がありますか。またその職業には、どのような資質や能力が必要ですか。

メモ

### ワーク2 (ラベルワーク)

〈課題〉人はなぜ働くのでしょうか。自分のため、人のため、社会のためなど様々な観点で考えてみましょう。

メモ

〈自分のため〉

〈人のため〉

〈社会のため〉

〈あなたの将来の夢や仕事について考えてみましょう。〉

〈今日の学習の感想〉






【プログラムⅢ-④】

**テーマ** 地域の一員として

**プログラム** 地域活動に参加しよう

**ねらい** 地域の方々がやっている活動や、自分達にできそうな活動について話し合い、自分達の住む地域を見つめ直す。

<展 開 (60分) >

時間	展 開 (進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・早口ことば 3 「3つの約束」の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt; 3つの約束 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 一人一人が主役です</li> <li>② お互いの意見を尊重しましょう</li> <li>③ ここだけの話にします</li> </ul> </div>
展開 (1) 20分	4 地域の方々がやっている地域活動について考える。 ① ラベルに記入する <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">  <p>地域の方々がどのような地域活動を行っているか考えてみましょう。自分がお世話になった方や、学校や地域でボランティアなどの地域活動している方はいませんか。</p> </div> ② グループ・全体で話し合う <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">  <p>同じ地区に住んでいる友達同士のグループに分かれて、地域の地図にラベルを貼っていきましょう。地域の方々の活動を皆さんに紹介しましょう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;ワークショップ1 (地域活動マップ作成)&gt; 地域の方々がやっている活動について考えましょう。</p> </div> <p>例：「公園や道路の清掃や花植えをしている」「登下校の見守り活動をしている」「公民館で読み聞かせをしている」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グルーピングする際、同じ地区または近隣の地区の子ども同士になるようにする。</li> <li>イベントやボランティアなどの地域活動に参加した経験がある場合は、その状況を具体的に話させる。</li> </ul>
展開 (2) 20分	5 地域をさらによりよいものにしていくために自分達にできることはないか考える。 ① ラベルに記入する <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">  <p>地域のために自分達にできることを考えましょう。自分だけでなく、友達や地域の方と一緒にできることも考えてみましょう。</p> </div> ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">  <p>あなたの住むまちをどんなまちにしたいか考えてみましょう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;ワークショップ2 (ラベルワーク)&gt; 地域活動をさらによりよいものにしていくために自分達にできることを考えましょう。</p> </div> <p>例：「敬老会に参加する。」「地域の人と出会ったら挨拶をする。」「休日にごみ拾いをする。」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すぐに実行できることから友達同士で取り決めを行う。</li> <li>どんなまちにしていきたいか話し合う。</li> </ul>
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">  <p>最後に、「おおいそがし、こいそがし」という絵本を読みます。地域活動をさらによりよいものにしていくために、できることからやっていきましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本「おおいそがし、こいそがし」(ユンクピョン作、イラスト、平凡社)の読み聞かせを聞き、地域活動をさらによりよいものにしていくための実践への意欲をもたせる。</li> <li>今日の学習の感想を書かせる。</li> </ul>

## 『【Ⅲ-④】地域活動に参加しよう』ワークシート

### ワーク1 (地域活動マップ作成)

<課題> 地域の方々がどのような地域活動を行っていますか。地域の地図にラベルを貼り、皆さんに紹介しましょう。

メモ

### ワーク2 (ラベルワーク)

<課題> 地域をさらによりよいものにしていくために自分達にできることを考えましょう。

メモ

<あなたの住むまちをどのようなまちにしたいですか。>

<今日の学習の感想>







【プログラムⅢ-⑤】

**テーマ** 子どもの気持ちを受け止める

**プログラム** 悩みを一緒に考える

**ねらい** 子どもがいやな思いをして、いつもと様子が違うとき、親としてどう受け止め対応するか考える。

<展 開 (60分) >

時間	展 開 (進行マニュアル)	展開のポイント
導 入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・運命の人を探せゲーム (仲間探し) 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展 開 (1) 15分	4 子どもがいやな思いをしたとき、親は子どものどんな様子で気付くか、考える。 ① ラベルに記入する  親は、子どものどんな様子で、子どもがいやな思いをしたことに気付くか、ラベルに記入しましょう。 ② ラベルワークを行う ラベルに書いたことを一人ずつ説明しながら、用紙に貼り付けていきましょう。同じものがあったら近くに貼り付けて、分類しましょう。  ③ グループで話し合う  どんな様子で気付くか、感じたことをグループで話し合しましょう。後で、グループの代表の人に発表してもらいます。 ④ 全体で発表する	<ワークショップ1 (ラベルワーク) > 親は、子どものどんな様子で、子どもがいやな思いをしたことに気付くでしょう。 例：「けがをしている」 「しゃべらない」 「食欲がない」 ・いやな思いにも、いろいろな状況があることを考えさせる。 ・自分が親になったときの気持ちを想像させて考えさせる。
展 開 (2) 25分	5 いやな思いをした子どもに対する、よりよい言葉かけを考える。 ① 親と子どもの役に分かれて、ロールプレイングを行う 様子のおかしい子ども役と、それに気づいた親の役に分かれて、子どもへのよりよい言葉かけについて、考えてみましょう。  ② グループで話し合う ③ 全体で発表する  他のペアのロールプレイングを見てどうでしたか。親の気持ち、子どもの気持ちを考えてみましょう。	<ワークショップ2 (ロールプレイング) > 子どもがけがをして、家に帰ってきたときの親子の会話 ・ロールプレイングのテーマは、ワーク1で出たものから選んでもよい。 例：子どもの食欲がないとき 子どもがしゃべらないとき など ・気付いたときの親の気持ちを想像させ、親の立場を理解させる。
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想 最後に「たったひとつの命だから」という本を紹介します。命の大切さや親子の絆について、考えながら聞いてください。 	・「たったひとつの命だから」(ワンライフプロジェクト 地湧社)の読み聞かせをし、命の大切さや、親子の絆について考えさせる。 ・今日の学習の感想を書かせる。

## 『Ⅲ-⑤』 悩みを一緒に考える』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

＜課題＞親は、子どものどんな様子で、いやな思いをしたことに気付くでしょう。

メモ

### ワーク2 (ロールプレイング)

＜場面設定＞子どもがけがをして、家に帰ってきたとき

＜今日の学習の感想＞






【プログラムⅣ－①－1】

**テーマ** 祖父母としての役割

**プログラム** 孫へのかかわり方について考えよう

**ねらい** 孫へのかかわり方についてロールプレイングをしたり、話し合ったりすることを通して、祖父母としての役割について考える。

<展 開 (60分) >

時間	展 開 (進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・伝言ゲーム 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 孫へのかかわり方において祖父母として気をつけることについて考える。 ① ラベルに記入する  <p>お孫さんへのかかわり方において、祖父母として気をつけていることについて考えましょう。おこづかいのこと、孫とのかかわり、親とのかかわりなどについて考えてみましょう。</p> ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う  <p>ラベルに記入したことを皆さんに紹介しましょう。自分のお孫さんへのかかわり方を、他の参加者に強要せず、お互いの考えを認め合いましょう。</p>	<ワークショップ1 (ラベルワーク) > 孫へのかかわり方において、祖父母として気をつけることについて考えましょう。 例：「簡単におこづかいをあげない」「親のしつけを批判しない」「甘やかし過ぎない」など ・自分の孫へのかかわり方を、他の参加者に強要せず、お互いの考えを認め合えるようにする。 ・意見を、おこづかいのこと、孫とのかかわりや親とのかかわりなどのカテゴリーで分けた後で話し合う。
展開 (2) 20分	5 ほしい物をねだってきた孫へのよりよい言葉かけについて考える。 ① ワーク2に記入し、ロールプレイングを行う  <p>ほしい物をねだってきたお孫さんへのよりよい言葉かけについて考えましょう。お孫さんがほしがる物については、子どもの発達段階に合わせてペアの方と考えましょう。</p> ② グループ・全体で話し合う  <p>他のペアの方のロールプレイングをご覧になっていかがでしたか。これまでの自分のお孫さんへの対応についても振り返ってみましょう。</p>	<ワークショップ2 (ロールプレイング) > 孫が自分に「〇〇買って」と、ほしい物をねだってきた時。 例：「もうちょっと我慢しようね。」「〇〇を頑張ったら、買ってあげるね。」「まだ、小学生には必要ないよ。」など ・孫がほしがる物については、子どもの発達段階に合わせて考える。 ・すべての参加者のロールプレイングに対してお互いのよさを認め合えるようにする。
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  <p>最後に、「だいじょうぶ だいじょうぶ」という絵本を読みます。今後、お孫さんによりよい言葉かけができるといいですね。</p>	・絵本「だいじょうぶ だいじょうぶ」(いとうひろし作、講談社)の読み聞かせを聞き、祖父母としての役割に気付かせる。 ・今日の感想を書かせる。

## 『[IV-①-1] 孫へのかかわり方について考えよう』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

＜課題＞孫へのかかわり方において、祖父母として気をつけることについて考えましょう。

メモ

### ワーク2 (ロールプレイング)

＜場面設定＞孫が自分に「〇〇買って」と、ほしい物をねだってきた時。

＜孫役＞（例）「おばあちゃん、〇〇買って。」



＜祖父母役＞

＜これまでの自分のお孫さんへの対応について振り返りましょう。＞

＜今日の学習の感想＞

【プログラム IV-①-2】

**テーマ** 祖父母としての役割

**プログラム** 子育て中の親への接し方について考えよう

**ねらい** 祖父母として子育てをしている親へのかかわり方から、祖父母としての役割について考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	<p>1 テーマの説明</p> <p>2 アイスプレイング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後出しじゃんけん</li> <li>・誕生日チェーン(グループ分け)</li> </ul> <p>3 「3つの約束」の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスプレイングを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;3つの約束&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 一人一人が主役です</li> <li>② お互いの意見を尊重しましょう</li> <li>③ ここだけの話にします</li> </ol> </div>
展開 (1) 20分	<p>4 子育て中の親の悩みや不安について考える。</p> <p>① ラベルに記入する</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>子育て中の親の悩みや不安はどんなことがあるでしょう。体験談や知人の話、マスコミ等の情報などからも考えてみましょう。</p> </div> <p>② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どんな悩みや不安が多いのか、意見を出し合ひましょう。出された意見については、親子関係、子どものこと、自分のことなどカテゴリーに分けてみましょう。全体では各グループの話し合いの内容を紹介し合ひましょう。</p> </div>	<p>&lt;ワークショップ1(ラベルワーク)&gt; 子育て中の親の悩みや不安について考えましょう。</p> <p>例：「ゲームばかりして勉強をちっともしない」 「家ではほとんど親と口を聞かない」 「褒めるより叱ることが多い」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が子育て中に悩んでいたことや、親から相談を受けたこと、一般的に親が悩んでいると思われることも挙げる。</li> <li>・意見を親子関係、子どものこと、自分のことなどのカテゴリーで分けた後、話し合う。</li> </ul>
展開 (2) 20分	<p>5 子育ての悩みや不安を抱えている親への言葉かけや接し方について考える。</p> <p>① ワークシートに記入し、ロールプレイングを行う</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>子育ての悩みや不安を抱える親への言葉かけや、よりよい接し方について考えましょう。自分が相談を受けたことや、自分が子育て中に悩んでいたことなどを思い出しましょう。親の心情に寄り添った言葉かけについて考えましょう。</p> </div> <p>② グループ・全体で話し合う</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>他のペアのロールプレイングをご覧になっていかがでしたか。親への言葉かけや接し方について自分でも振り返ってみましょう。よりよい言葉かけや接し方について意見を交換し合ひましょう。</p> </div>	<p>&lt;ワークショップ2(ロールプレイング)&gt; 子育て中の親が悩みや不安を相談した時。</p> <p>例：「よくあるよね。そういうこと。」 「子育ての本にこんなことが紹介されていたよ」 「〇〇さんに一度話を聞いてもらったら」 など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悩みや不安の内容については事前にトレーナーが決めておく。</li> <li>・ペアで祖父母役と親役に分かれてロールプレイングを行う。</li> <li>・話し合いは、ロールプレイングを見た感想だけでなく、親へのよりよい言葉かけや接し方についても意見を出させる。</li> </ul>
まとめ 10分	<p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックトーク</li> <li>・今日の学習の感想</li> </ul> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>最後に「孫育て一年生」「孫育ての時間」を紹介します。子育てで悩みや不安を抱えている親の心に寄り添い、よりよい言葉かけができるといいですね。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「孫育て一年生」(棒田明子著 KADOGAWA)「孫育ての時間」(山縣威日・中山真由美編 吉備人出版)のブックトークを聞き、子育てに悩んでいたたり、不安を抱えていたりする親にどんな言葉をかけたらよいのか、どんな接し方をしたらよいのかを考えさせることで、祖父母としての役割に気付かせる。</li> <li>・今日の学習の感想を書かせる。</li> </ul>

『(Ⅳ-①-2) 子育て中の親への接し方について考えよう』

ワークシート

ワーク1 (ラベルワーク)

<課題> 子育て中の親の悩みや不安について考えましょう。

メモ

ワーク2 (ロールプレイング)

<場面設定> 子育て中の親が悩みや不安を相談した時

<今日の学習の感想>






【プログラムⅣ-②】

**テーマ** 子育ての先輩として

**プログラム** 地域の親の相談にのろう

**ねらい** 子育てに悩んでいる地域の親とのかかわり方についてロールプレイングをしたり、話し合ったりすることを通して、地域における子育ての先輩としての役割について考える。

<展 開 (60分) >

時間	展 開 (進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・伝言ゲーム 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 子育てに悩んでいる親の悩みについて考える。 ① ラベルに記入する  <p>子育てに悩んでいる親の悩みについて考えましょう。 自分が子育て中に悩んでいたことや、一般的に親が悩んでいると想像できることも挙げてみましょう。</p> ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う  <p>出された意見を、親子関係、子どものこと、自分のことなどのカテゴリーで分けましょう。 実際に自分が悩んでいたことや、相談を受けたことなどについて、具体的に話してください。</p>	<ワークショップ1 (ラベルワーク) > 子育てに悩んでいる親の悩みについて考えましょう。  例：「うちの子が反抗的で言葉遣いも悪い」「友達にいじめられて学校に行かない」「イライラして、すぐに叱ってしまう」など  ・自分が子育て中に悩んでいたことや、一般的に親が悩んでいると想像できることも挙げる。 ・意見を、親子関係、子どものこと、自分のことなどのカテゴリーで分けた後、話し合う。
展開 (2) 20分	5 子育てに悩んでいる親へのよりよい言葉かけについて考える。 ① ワーク2に記入し、ロールプレイングを行う  <p>子育てに悩んでいる親の悩みについて考えましょう。 自分が子育て中に悩んでいたことや、一般的に親が悩んでいると想像できることも挙げてみましょう。</p> ② グループ・全体で話し合う  <p>他のペアの方のロールプレイングを御覧になっていかがでしたか。 これまでの自分の地域の親への対応についても振り返ってみましょう。</p>	<ワークショップ2 (ロールプレイング) > 地域の親が、子育ての悩みを打ち明けてきた時。  例：「私も同じことを悩んでいたよ」「この本を読むとヒントが書いてあるよ」「私が〇〇くんと話をしてみるね」など  ・悩みの内容については、事前にペアで話しあって決める。 ・話し合いでは、ロールプレイングを見た感想だけでなく、これまでのかかわり方についても振り返らせる。
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  <p>最後に、「最初の質問」という絵本を読みます。 地域における子育ての先輩として、できることをやっているといいですね。</p>	・絵本「最初の質問」(長田弘詩、いせひでこ絵 講談社)の読み聞かせを聞き、地域における子育ての先輩としての役割に気付かせる。 ・今日の学習の感想を書かせる。

## 『(Ⅳ-②) 地域の親の相談にのろう』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題> 子育てに悩んでいる親の悩みについて考えましょう。

メモ

### ワーク2 (ロールプレイング)

<場面設定> 地域の親が、子育ての悩みを打ち明けてきた時。

<地域の親役>

(例) 「〇〇さん、うちの子が最近〇〇で・・・」



<地域住民役>

<今日の学習の感想>






【プログラムⅣ-③】

**テーマ** シニアの知識や技

**プログラム** 自分のもっている知識や技を伝えよう

**ねらい** 自分のもっている知識や技についての話し合いを通して、地域の子どものために自分達にできそうなことについて考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・〇×クイズ 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 地域の子どものために自分ができそうなこと(知識や技)について考える。 ① ラベルに記入する  <p>地域の子どものために自分ができそうなこと(知識や技)は何でしょうか。特別に得意なことがない場合は、一緒に遊ぶや一緒に掃除などでもいいですよ。</p> ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う  <p>できそうなこと(知識や技)をカテゴリーごとに分けましょう。一緒に活動できそうな仲間がいらっしゃったら、確認しましょう。</p>	<ワークショップ1(ラベルワーク)> 地域の子どものために自分ができそうなこと(知識や技)は何でしょうか。 例: 「読み聞かせや昔話ができる」 「花を植えたり、育てたりするのが得意」 「竹とんぼなど竹細工が得意」 など ・特別に得意なことがない場合は、一緒に遊ぶや一緒に掃除などでも良いことを伝える。 ・できそうなこと(知識や技)をカテゴリーごとに分けることで、一緒に活動できる仲間を確認する。 ・カテゴリー例: 自分の趣味・特技(花作り、竹細工、読み聞かせ)、子どもと共に活動するなど
展開 (2) 20分	5 地域の子どものために自分達にできそうなこと(知識や技)をもとに、計画案を考える。 ① ワーク2に記入する  <p>地域の子どものために自分達にできそうなこと(知識や技)をもとに、計画案を考えましょう。活動できるメンバーが複数いる場合は、計画案を一緒に考えてもいいですよ。</p> ② グループ・全体で話し合う  <p>実現可能な場合は、具体的な実施場所や時間、連絡先なども話し合いましょう。他のグループの計画案も参考にして、自分達の計画案を修正してもいいですよ。</p>	<ワークショップ2(話し合い)> 地域の子どものために自分達にできそうなこと(知識や技)をもとに、〇〇計画案を考えよう。 例: 「保育園で、昔話をする」 「小学校で、花植えや草取りをする」 「習字の授業の手伝いをする」 など ・活動できるメンバーが複数いる場合は、計画案を一緒に考えさせる。 ・実現可能な場合は、具体的な実施場所や時間、連絡先なども話し合う。
まとめ 10分	6 まとめ ・カードの記入 ・今日の学習の感想  <p>自分が地域の子どものためにできそうなことについて、カードに記入し、グループ内で交換してコメントをもらいましょう。</p>	・カードに地域の子どものためにできそうなことについて記入し、グループ内で交換してコメントをもらう。 ・今日の学習の感想を書かせる。

## 『Ⅳ-③』自分のもっている知識や技を伝えよう』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題> 地域の子どものために自分ができそうなこと（知識や技）は何でしょうか。

メモ

### ワーク2 (話し合い)

<課題> 地域の子どものために自分達にできそうなこと（知識や技）をもとに、〇〇〇計画案を考えよう。

(例) 日時、場所、対象、必要なものなど

<今日の学習の感想>






【プログラムV-①】

**テーマ** 子どもを見守る

**プログラム** 地域の子どもは地域で育てる

**ねらい** 地域の子ども達とのかかわり方についてロールプレイングをしたり、話し合ったりすることを通して、地域住民としての役割について考える。

<展開(60分)>

時間	展開(進行マニュアル)	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・後出しジャンケン 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 地域の子ども達にかかわったり、見守ったりできる機会と心がけについて考える。 ① ラベルに記入する  地域の子ども達にかかわったり、見守ったりできる機会について考えましょう。また、どんなことに心がけたらよいでしょう。 ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う  同じくらいの年齢の方とグループに分かれましょう。自分の考えを他の参加者に強要せず、お互いの考えを認め合いましょう。	<ワークショップ1(ラベルワーク)> 地域の子ども達にかかわったり、見守ったりできる機会について考えましょう。また、どんなことに心がけたらよいでしょう。 例：「登下校時、公園で遊んでいる時」 「まずは笑顔で挨拶を心がける」 「悪ふざけの時は優しく注意する」など ・年齢ごとにグループ分けする方が、お互いの共通理解が得やすい。 ・自分の考えを、他の参加者に強要せず、お互いの考えを認め合えるようにする。
展開 (2) 20分	5 悪ふざけをしている地域の子ども達へのよりよい言葉かけについて考える。 ① ワーク2に記入し、ロールプレイングを行う  悪ふざけをしている地域の子ども達へのよりよい言葉かけについて考えましょう。子どもの立場になって、子ども達が心から反省できるよりよい言葉かけを考えましょう。 ② グループ・全体で話し合う  他のペアの方のロールプレイングを御覧になっていかがでしたか。これまでの地域の子ども達への自分のかかわり方についても振り返ってみましょう。	<ワークショップ2(ロールプレイング)> 下校中に悪ふざけで、追いかけてっこをしていて、車と接触しそうになった子どもを見かけた時。 例：「もうちょっとで危ないところだったね」 「君達、怪我はなかったかな」 「これまで見て見ぬ振りをしていた」など ・地域住民役と子ども役に分かれてロールプレイングをし、子どもの立場にもなることで、子ども達が心から反省できるよりよい言葉かけを考える。 ・話し合いでは、ロールプレイングを見た感想だけでなく、これまでのかかわり方についても振り返らせる。
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  最後に、「ベレのあたらしいふく」という絵本を読みます。地域住民として、地域の子ども達のためにできることからやってみようという気持ちで。	・絵本「ベレのあたらしいふく」(エルサ・ベスコフ作、福音館書店)の読み聞かせを聞き、地域住民としての役割に気付かせる。 ・今日の学習の感想を書かせる。

## 『(V-①) 地域の子どもは地域で育てる』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題> 地域の子ども達にかかわったり、見守ったりできる機会について考えましょう。また、どんなことに心がけたらよいでしょう。

メモ

### ワーク2 (ロールプレイング)

<場面設定> 下校中に悪ふざけで、追いかけてっこをしていて、車と接触しそうになった子どもを見かけた時。

<子ども役>

(例) 「あっ、危なかった。」



<地域住民役>

<今日の学習の感想>







【プログラムV-②-1】

**テーマ** 地域活動への参加

**プログラム** 地域活動の輪を広げよう（地域住民）

**ねらい** 地域の親子が参加できそうな地域活動や、地域住民として自分達にできそうな地域活動について話し合うことを通して、地域活動の輪を広げる必要性について考える。

<展 開（60分）>

時間	展 開（進行マニュアル）	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・30秒当て 3 「3つの約束」の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;3つの約束&gt;            ① 一人一人が主役です            ② お互いの意見を尊重しましょう            ③ ここだけの話にします         </div>
展開 (1) 20分	4 地域の親子が参加できそうな地域活動について考える。 ① 地域の魅力について話し合う  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">             地域の魅力について、考えてみましょう。           </div> ② ラベルに記入する  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">             地域の親子が参加できそうな地域活動について考えましょう。              家庭の事情なども考慮し、子どもだけの参加が可能な地域活動についても考えましょう。           </div> ③ 地域活動年間曆にラベルを貼り、グループ・全体で話し合う <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">             地域活動年間曆の各月の上に、書いたラベルを貼っていきましょう。              イベントやボランティアなどの地域活動に参加した経験がある場合は、具体的に話してください。           </div> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             &lt;ワークショップ1（話し合い）&gt;              地域の親子が参加できそうな地域活動について考えましょう。           </div> 例：「地域のスポーツ大会やラジオ体操」 「地域の祭りやボランティア活動」 「子ども会や公民館の講座」など <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の魅力についてグループごとに話し合わせる。</li> <li>家庭の事情なども考慮し、子どもだけの参加が可能な地域活動についても考える。</li> <li>イベントやボランティアなどの地域活動に参加した経験がある場合は、その状況を具体的に話させる。</li> <li>地域活動年間曆に季節ごとの色分けを行うなど工夫を行う。</li> </ul>
展開 (2) 20分	5 地域活動の輪を広げていくために、地域住民として自分達にできそうなことを考える。 ① ワーク2に記入する  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">             地域活動の輪を広げていくために、地域住民として自分達にできることを考えましょう。              地域の親子のためだけでなく、自分達にとっても楽しんで取り組み、長続きすることを考えましょう。           </div> ② ラベルに書き込み、グループ・全体で話し合う <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">             意見を、個人でできること、協力が必要なことなどのカテゴリーで分けましょう。              すぐに実行できることについては地域住民の皆さん同士で取り決めを行うのもいいですね。           </div> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             &lt;ワークショップ2（ラベルワーク）&gt;              地域活動の輪を広げていくために、地域住民として自分達にできることを考えましょう。           </div> 例：「子どもだけの参加の声かけもする」 「親子が参加できる新しい企画を考える」 「日頃から、挨拶を進んでする」など <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の親子のためだけでなく、自分達にとっても楽しんで取り組み、長続きすることを考える。</li> <li>すぐに実行できることについては地域住民同士で取り決めを行う。</li> <li>どうすれば、みんなが参加できるのか話し合わせる。</li> </ul>
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">             最後に、「まつり」という絵本を読みます。              地域活動の輪を広げていくために、地域住民として自分達にできることからやっているといいですね。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本「まつり」（いせひでこ作、講談社）の読み聞かせを聞き、地域活動の輪を広げていくための実践への意欲をもたせる。</li> <li>今日の学習の感想を書かせる。</li> </ul>

## 『(V-②-1) 地域活動の輪を広げよう (地域住民)』ワークシート

### ワーク1 (話し合い)

<課題> 自分達が住んでいる地域の魅力について考えましょう。

メモ

<課題> 地域の親子が参加できそうな地域活動について考えましょう。

メモ

### ワーク2 (ラベルワーク)

<課題> 地域活動の輪を広げていくために、地域住民として自分達にできることを考えましょう。

<今日の学習の感想>





【プログラムV-②-2】

**テーマ** 地域活動への参加

**プログラム** 地域の輪を広げよう（企業）

**ねらい** 地域にある企業、企業人として社会貢献になり地域の親子と関わる活動を通して地域活動の輪を広げ、家庭での話題提供に寄与する。

〈展開（60分）〉

時間	展開（進行マニュアル）	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・集合ゲーム ・指折り など 3 「3つの約束」の確認	・本日のテーマの説明 ・参加者の緊張をほぐし円滑な話し合いが出来る雰囲気をつくる。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 地域の企業として地域の親子と関わる活動を考える。 ① ラベルに記入する  自分達が住んでいる地域で行われている活動には、どんなものがありますか。 ② ラベルワークを行いグループ・全体で話し合う 出された意見をカテゴリーに分けましょう。 それぞれのグループで出た意見を発表してください。 	<ワークショップ1> <ワーク1（ラベルワーク）> 地域活動に参加して良かったことは、何ですか。 例：「区の夏祭り（盆踊り）」 「ラジオ体操」 「神社・公園の清掃」 「市主催のイベント参加（まつり）」 「海浜清掃」等 ・参加経験がなく見たり聞いたりしたこと で良かったことなどを出してもらおう。
展開 (2) 20分	パターンA【主に地域活動への参加についての実践が少ない場合】 5 企業が地域の親子とかかわる活動がどのような効果をもたらすか、グループで考える。  グループで話し合いましょう。 ① 地域への効果 ② 家庭への効果 ③ 企業への効果 ④ 持続可能かどうか	<ワーク2（話し合い）> 企業が地域の親子とかかわる活動がどのような効果をもたらすか、考えましょう。 ・実現可能な場合は、具体的なプログラムを検討する。
	パターンB【主に地域活動への参加についての実践が多い場合】 5 地域活動へ参加、企画、運営方法について、グループで考える。  見聞きした地域活動からの子ども達、保護者の参加を促す方法や参加した子ども達や保護者が家庭で話すきっかけになる事象をグループで話し合いましょう。 それぞれのグループで出た意見を発表してください。	<ワーク2（話し合い）> 地域活動の良さ、そして企業のイメージアップに繋がり地域活動の活性化が図れる方法を考えましょう。 ・実現が可能な場合は、具体的な方法を立案する。
まとめ 10分	6 まとめ ・活動事例の紹介 ・今日の学習の感想 ・読み聞かせ	・地域で行われている活動の紹介 ・サポ・プロでの気付きや学びを書かせる。

## 『(V-②-2) 地域の輪を広げよう (企業)』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題> 地域の活動に参加して良かったことは何ですか。

メモ

### ワーク2 (話し合い)

パターンA

<課題> 企業が地域の親子とかかわる活動がどのような効果をもたらすか、考えよう。

メモ

パターンB

<課題> 地域活動の良さ、そして企業のイメージアップに繋がり地域活動の活性化が図れる方法を考えよう。

メモ

<今日の学習の感想>






【プログラムV-③】

**テーマ** 地域を知る

**プログラム** 地域のよさ（ひと・もの・こと）を伝えよう

**ねらい** 地域のよさ（ひと・もの・こと）についての話し合いを通して、そのよさを地域の親子に伝えるための方法について考える。

<展開（60分）>

時間	展開（進行マニュアル）	展開のポイント
導入 10分	1 テーマの説明 2 アイスブレイキング ・自己紹介 ・たましいの握手 3 「3つの約束」の確認	・参加者の緊張をほぐし、グループ内での円滑な話し合いのためにアイスブレイキングを行う。 <3つの約束> ① 一人一人が主役です ② お互いの意見を尊重しましょう ③ ここだけの話にします
展開 (1) 20分	4 地域のよさ（ひと・もの・こと）について考える。 ① ラベルに記入する  <p>自分達が住んでいる地域のよさ（ひと・もの・こと）は何でしょうか。地域のよさだけでなく、地域の課題として、ひと・もの・ことを考えてもいいですよ。</p> ② ラベルワークを行い、グループ・全体で話し合う  <p>地域のよさについて出された意見を、ひと・もの・ことのカテゴリーに分けましょう。自分達が住んでいる地域のよさや課題が明確になりましたね。</p>	<ワークショップ1（ラベルワーク）> 地域のよさ（ひと・もの・こと）は何でしょうか。 例：「近くに川があり、生き物がいる」 「元気なお年寄りが多く、協力的である」 「古くから伝わる神楽がある」など ・地域のよさだけでなく、地域の課題として、ひと・もの・ことを考えてもよい。 ・地域のよさについて出された意見を、ひと・もの・ことのカテゴリーごとに分けた後で、話し合う。
展開 (2) 20分	5 地域のよさ（ひと・もの・こと）を、地域の親子に伝える方法について考える。 ① ワーク2に記入する  <p>地域のよさ（ひと・もの・こと）を、地域の親子に伝える方法を考えよう。活動できるメンバーが複数いる場合は、計画案を一緒に考えましょう。</p> ② グループ・全体で話し合う  <p>実現可能な場合は、具体的な実施場所や時間、連絡先なども話し合しましょう。他のグループの計画案も参考にして、自分達の計画案を修正してもいいですよ。</p>	<ワークショップ2（話し合い）> 地域のよさ（ひと・もの・こと）を、地域の親子に伝える方法を考えよう。 例：「地域のよさ探し親子ウォーキングをする」 「高齢者による託児所を公民館に設置する」 「地域の公園でキャンプをする」など ・活動できるメンバーが複数いる場合は、計画案を一緒に考えさせる。 ・実現可能な場合は、具体的な実施場所や時間、連絡先なども話し合う。
まとめ 10分	6 まとめ ・読み聞かせ ・今日の学習の感想  <p>最後に、「だじゃれ日本一周」という絵本を読みます。これからも地域のよさ（ひと・もの・こと）を、地域の親子に伝えていけるといいですね。</p>	・絵本「だじゃれ日本一周」（長谷川義史、理論社）の読み聞かせを聞き、地域のよさ（ひと・もの・こと）を、地域の親子に伝えようとする意欲をもたせる。 ・今日の学習の感想を書かせる。

## 『(V-3) 地域のよさ(ひと・もの・こと)を伝えよう』ワークシート

### ワーク1 (ラベルワーク)

<課題>地域のよさ(ひと・もの・こと)は何でしょうか。

メモ

### ワーク2 (話し合い)

<課題>地域のよさ(ひと・もの・こと)を、地域の親子に伝える方法を考えよう。

<今日の学習の感想>

# アクティビティの手法

## 【ロールプレイング】

役割演技とも呼ばれ、ある場面に基づいて役割を決め、模擬的に演じることによって学習テーマに迫ったり、その役の立場を共感的に理解したりする手法です。基本的には、台本を用意せずに学習者に活動を委ねます。大体の流れを示す会話や状況を進行役で準備したり、事前に参加者に演技の内容を考えさせる場を設定したりすることも必要です。

## 【ラベルワーク（KJ法）】

学習者すべてのどのような意見も大切に扱われ、集団で創造的に問題解決を図っていきこうとする手法です。学習者が様々な知識や経験のもとで発想したアイデアや意見等をラベルなどを使用して収集します。収集したデータを整理して1枚の図に納め、全体を見ながら検討します。

## 【表現活動を取り入れた学習（マップ作成、暦作成等）】

調べ学習や様々な体験学習で学んだことを、新聞、紙芝居、作文・ポスター等にまとめ、発表することなどを通して、内容を共有することができます。

## 【シミュレーション】

擬似体験とも呼ばれ、一定の状況を擬似的に設定して、その中で体験的に行動、活動する方法です。参加者の中に仮の権力関係を設定して多数者と少数者の関係について体験する方法など、様々な疑似体験が考えられます。

## 【ランキング】

様々なテーマについて、権利や具体的物品名等をカードに記入し、参加者が自分にとって重要と考える順序にランキング（順位付け）して、その根拠等を整理し、結果について参加者相互が意見交換や討議を行います。討議のプロセスでは、一つの結果を導き出すということではなく、自分の考えを整理したり、他者の考えを理解したりすることによって、自分自身の認識を深めることができます。

## 【ディベート】

一つのテーマについてルールを決め、「肯定側（賛成派）」と「否定側（反対派）」に分かれて討論を行い、その論理性や表現力等を判定する手法です。対立する意見を主張し合うことにより、テーマに関するメリットとデメリットを明らかにし、多面的な見方や問題解決能力、情報処理能力を養いながら、テーマに対する認識を深めることができます。

# アイスブレイキングの方法

## 1 全体の雰囲気作り

### (1)【自己紹介】

グループの中で一人目が自己紹介をしたあと、「〇〇さんのとなりの〇〇です。」と自己紹介をします。その次の人は、「〇〇さんのとなりの〇〇さんのとなりの〇〇です。」となります。好きな食べ物を入れて、「〇〇の好きな〇〇さんのとなりの・・・」としても、なごやかになります。

### (2)【誕生日チェーン (バースデーチェーン)】

学習者が相互に誕生日を尋ねながら、無言でジェスチャーだけで誕生日順に列を作って並びます。言葉に頼らないコミュニケーションができます。

### (3)【名刺作り】

名前や自己紹介の内容などを自由に記した名刺を手作りし、学習者同士で交換しながら自己紹介をします。

### (4)【フルーツバスケット】

人数分より一つ少ない椅子をまるく置きます。その場にいる人たちの特徴を指定します。例えば、「眼鏡をかけた人」と言われたら、眼鏡をかけた人はすべて席を替わらなければなりません。ファシリテーターが最初の一つを言ってからは、はみ出した人が次の特徴を指定します。

### (5)【30秒当て】

全員目をつぶり、進行役の「スタート」の合図で、心の中で30秒を図ります。30秒経ったと思ったら手を挙げます。進行役は30秒になったら「30」と合図をします。ジャストで手が挙げればお互いに拍手します。

### (6)【後出しジャンケン】

進行役が「ジャンケン・ポン」と言って、みんなは遅れて「ポン」と言ってジャンケンをします。はじめは進行役と“あいこ”になるように出します。次は進行役に“勝つ”ように。最後は“負ける”ように出してもらいます。ジャンケンのテンポを徐々にあげていくと盛り上がります。

### (7)【たましいの握手】

2人組になります。それぞれが「1・2・3」の数字の内、好きな数字を思い浮かべます。合図と同時にその回数ほど相手の手をぎゅっと握ります。(または、回数ほど手を握る代わりに、握手した手を上下に振ってもいいです。)見事、同じ回数握りあったら、「気が合いますねえ」と言ってお互いに喜びを分かち合います。もし、同じにならなかったら、「残念。また、後ほど」と言って分かります。ペアを変えながら何人かと握手します。

### (8) 【握手リレー】

みんなで手をつなぎ、スタートの合図ではじめの人から右手をぎゅっと握っていきます。握られた人は隣の人の手を握ります。1週したらゴールです。時間を計ったり、左右で試したりします。

### (9) 【キャッチ】

みんなで円になり、両手を軽く横に出します。左手は輪を作るように軽く握ります。右手は人差し指を立て、隣の人の左手の輪の中に入れます。進行役が「キャ・キャ・キャ・キャ・キャッチ！」と言ったら、右手の人差し指を輪から引き出します。同時に左手は相手の人差し指を逃さないようにつかみます。慣れてきたら左右を逆にします。あまり強くつかむとけがをするのではじめに注意を促してください。

### (10) 【○×クイズ】

講座に関係する問題をいくつか参加者に質問します。「○ (Yes)」「× (No)」のふだや2色分けのふだを作っておくといいです。

### (11) 【だまし絵】

本来えがかれているものが、見方によって別のものに見える絵を使って、どのように見えるか、意見を出し合います。

### (12) 【指折り】

参加者に①～⑩まで声を出しながら、親指から小指へと左手と右手の指を同時に折りていき、次に小指から親指へと同時に開いていきます。

今度は右手の親指を折り、右手は人差し指から左手は親指から同じように折ってから、開いていきます。左右の動きが異なるので、⑨から⑩の時に折った指に変化が出るからおもしろいゲームです。

## 2 グループ内での雰囲気作り

### (1) 【新聞パズル】

グループごとに新聞紙を5回、半分に裂きます。別のグループの裂いた新聞紙を、ジグソーパズルのように元に戻します。

### (2) 【聖徳太子ゲーム】

進行役の示す言葉を、グループの中で1人が一文字を担当します。進行役の合図でグループ全員が一斉に、担当の文字を大声でみんなに伝えます。聞いている人は、一斉に伝えられた文字をつなぎ合わせ、何の言葉を言ったのかを当てます。

### (3) 【伝言ゲーム】

進行役が決めたある文章を順番に口頭で伝えていって、最後の人が正しい文章を言えればOKです。背中に文字を書く方法もある。人数は多い方が面白いです。

### 3 グループ分け

#### (1) 【仲間探し】

ファシリテーターが提示したテーマをもとに、同じ事柄があてはまる人同士でグループをつくる活動です。そのあとグループ内で自己紹介をしてコミュニケーションを図ります。

#### (2) 【部屋の四隅（4つのコーナー）】

ファシリテーターが提示した課題について、4つの選択肢から自分の考えに最も近いものを選び、選んだ選択肢が貼ってある部屋の四隅に移動し、そのコーナーを選んだ理由を簡単に述べます。4つの選択肢は、「そう思う。」「どちらかと言えばそう思う。」「どちらかと言えばそう思わない。」「そう思わない。」です。

#### (3) 【同じ色集まれ】

学習者に目を閉じてもらい、ファシリテーターは、一人一人の襟首に色付きシールを貼ります。目を開けたら、無言で同じ色同士のグループに分かれさせます。（これにより、次のアクティビティのグルーピングにもなります。）言葉に頼らないコミュニケーションができます。

#### (4) 【集合ゲーム】

参加者は、トレーナーの「せーの」のかけ声に合わせて拍手をします。1回、2回と積み重ね、トレーナーの「そこまで」のかけ声に合わせて、拍手をした数だけ集まります。

# コラム集

	タイトル名	ページ
1	小学校の詩「対話の森」(三行連詩)	89
2	中学校の詩「思考について考える」(五行連詩)」	90
3	電気おっちゃんの話	91
4	北風と太陽と涙	92
5	万能育児器の話	93
6	地域の教育力	94
7	トーキングストーン	95
8	拾った財布	96
9	セレンディップ(セイロン島)の三人の王子	97
10	劣等感をチャンスに	98
11	「ヘレン・ケラー」と「塙保己一」	99
12	「魔法の杖」と「魔法の言葉」	100
13	人生のプロジェクト	101
14	長崎カステラ	102
15	「ピグマリオン効果」と「ゴーレム効果」	103
16	駅のホームで	104

※ このコラム集は、南島原ファミリープログラムより、著作者のNPO法人チェンジライフ熊本 理事 三角幸三氏の許可を得て掲載しております。  
プログラムを実施される際の、まとめ時の説話などにご利用ください。

## 1 小学校の詩「対話の森」(三行連詩)

何でもオーケー  
次々に話題が変わる  
サーフィン (波乗り) 対話

うんうん なるほど  
認め褒め励まし伸ばす  
ハート (思いやり) 対話

言葉を大切にし  
豊かな表現にこだわる  
オーラル (言葉) 対話

石ころ握って  
話す人と聴く人をコントロール  
ストーン (石ころ) 対話

鉛筆握って  
言葉を使わず、文字で伝え合う  
ペンシル (鉛筆) 対話

テーマを決めて ルールをまもり  
リングの中でバトルする  
フレーム (枠) 対話

大きく広げて揺さぶって  
ぎゅーっと絞り込む  
ダイヤモンド (ひし形) 対話

一つのテーマに絞り込んで  
細かく分類し具体的に整理する  
サンドグラス (砂時計) 対話

いつ? どこで?  
なぜ? どうして? と問答する  
ロジカル (筋道) 対話

図表を上手に使って  
キーワードでまとめる  
マトリックス (格子) 対話

歩き回って、あちこちに  
立ち寄りながら話し合う  
ワールドカフェ (喫茶店) 対話

わいわいがやがや  
手と口と頭と体を使って伝え合う  
アクティブ (活動) 対話



## 2 中学校の詩「思考について考える」（五行連詩）

思考について考える

わからないときには、語句を分けてみよう

「思」と「考」

思うのは、心で

考えるのは、頭です

思考について考える

疑問に思ったときには、実際にやってみよう

「思」と「考」

思うことは、一人一人ですが

考えることは、みんなでできます

思考について考える

迷ったときには、関係ある語句と比べてみよう

「思考」と「学習」

思考は、頭の中から外に出すことで

学習は、外から頭の中に入れることです

思考について考える

悩んだときには、似た語句を集めてみよう

「思考」と「思案」

思考は、思って考えることで

思案は、思って案じることです

思考について考える

困ったときには、反対の語句を探してみよう

「思考」と「行動」

思考するの反対は、行動すること

対で考えると、頭の中が整理されます

思考について考える

行き詰まったら、基本に戻って考えてみよう

思考で重要な「言葉」と「文字」

思うのには、言葉や文字はいらないけれど

考えるためには、必ず言葉か文字が必要です



### 3 電気おっちゃんの話

私は、小学生の時、福岡から引っ越してきました。新しい学校では、友だちができずに、いつも一人で遊んでいました。様子を見ていた近所の電気修理店のおじさんが「うちに遊びにおいで、宝物がいっぱいあるよ」と誘ってくれました。

私は、そのおじさんを「電気おっちゃん」と呼び、土曜日、日曜日、平日の放課後、毎日遊びに行きました。電気おっちゃんは、壊れた電機製品の部品でラジコンカーを作り、壊れたモーターで発電機を作り、壊れたネオンサインでクリスマスのイルミネーションを作ってくれました。私にとっては魔法使いのようなおじさんでした。

ある日、電気おっちゃんが、壊れたバイクを改造して自動車を作り始めました。電気おっちゃんは、若い時、脊椎カリエスという病気になって背中の骨が曲がっていました。

普通の自動車は運転できないので、自分の体に合わせて改造するのです。完成した時、私を一番に乗せて、水前寺公園に連れて行ってくれました。

しかし、その水前寺公園で、事件が起きました。私たちは修学旅行の高校生から、石を投げられました。その石が、私の頭に当たって血が流れました。電気おっちゃんは、私に覆い被さって守ってくれました。家に帰ると、私の母に「私のせいで息子さんに怪我をさせて申し訳ありません」と謝りました。母は、「悪いのは、あなたではありません。体の不自由な人を、そんな目で見ると世の中が悪いのです。いつも、息子に電気や科学の勉強を教えていただき感謝します。」と答えました。

私は、小学校六年生でしたが、今でも、電気おっちゃんと母の会話を覚えています。あれから五十年以上経ちましたが、いまだに、弱い立場や体の不自由な人々に対するいじめや差別はなくなりません。私たちは、たくさんの人々との交流を深め、お互いに自分と違う生き方を認め合う心を育むことが大切です。



## 4 北風と太陽と涙

イソップ童話の中に、「北風と太陽」という話がありますが、これは人の心を動かすには厳しく強制するよりは、優しく接した方が効果的であるという教訓を童話にしたものです。

ある学校で万引き事件があり、生徒が警察に補導されました。翌日、担任の先生が、万引きをした生徒を職員室横の生徒指導室に呼び出しました。はじめに、体育系で生徒指導担当の先生が、彼の前に仁王立ちになり、正座をさせて万引きが犯罪であることを厳しく指導しました。生徒は彼の話聞いていましたが「お説教はそれだけ？俺も忙しいんだからそろそろ帰してほしい。」とつぶやきました。

二番手は、優しい担任の先生で、「君の気持ちはよくわかる。よほど腹の立つことがあったのだろう。しかし・・・」と彼の境遇に同情し共感しながら、反省を促そうとしました。しかし、彼は「俺の気持ちが分かっているなら、早く帰してほしい」とつぶやきました。彼は、その優しさを逆手にとりました。結局、両方とも何の効果もありませんでした。

生徒側の勝利に終わり、彼は意気揚々と生徒指導室から職員室へ出ようとしたとき、気の弱そうな女の先生が、彼の前に無言で立ちました。彼女は、彼の目をじーっと見つめ涙を流し、彼女が、彼のことを本気で心配し信じていたことを話しました。そして、その信頼を裏切られたことが、どんなに悲しいかを悲鳴に近い声で話し、彼の前に泣き崩れました。彼女の泣き声は職員室中に響き渡り、全職員が彼と女の先生を取り囲みました。あまりの迫力に、つっぱり君もたじたじして「先生、恥ずかしいから・・・もう、わかったから泣かないでくれ・・・」という、そそくさと職員室を後にしました。

体育教師の「北風」も、優しい先生の「太陽」も、彼には全く効果がありませんでした。しかし、か細い女先生の「涙」という新手の戦法で彼の心を動かしてしまいました。

最後に、彼女は、常日頃から熱心に彼の話に耳を傾け、根気強く話し合いを続けていたことも事実ですが、もう一つ、彼女は大学時代に演劇部に所属していたことを申し添えておきます。



## 5 万能育児器の話

これは、ユーモア作家、星新一の未来風刺小説の題名です。

二十一世紀後半、いそがしい夫婦のために、育児を代行する「万能育児器」という機器が発明される話です。この万能育児器は、授乳、おむつ交換、健康管理ができ、赤ちゃんが泣けば、甘い声で子守歌を歌い、童話の読み聞かせ、しつけまで、すべて引き受けてくれるという優れたものなのです。値段も格安なので飛ぶように売れます。子育てから解放された父母たちは、子どもを育児器にまかせて、自分たちの仕事や趣味に熱中することができるようになります。子どもたちもまた、万能育児器から英才教育を受け、素直でかっこいい青年となり、みんな立派に育っていきます。そして、しばらくの間は、みんな幸せで楽しい月日が過ぎていきます。

しかし、子どもたちが成人を迎えたある日、テレビから聞き覚えのある懐かしい万能育児器の甘い声で、あるメーカーの商品CMが流れはじめます。その声を聞いた子どもたちは、理性を失い、親の意見や忠告には聞く耳を持たず、その懐かしい声の誘うがままに、紹介される商品を次々に買いあさってしまうという怖い話なのです。

この話はフィクションなのですが、私は、現在の私たちの子育てのあり方を皮肉っているように思えて、単純に笑うことができません。最近、親が子どもに我が家の伝統の味を教えたり、家族そろって食事の支度をしたりする機会が少なくなりました。インスタント・レトルト食品も多くなり、家庭のおふくろの味は「袋の味」になりつつあります。冠婚葬祭も、家の外で行われるようになりました。子ども達は、節分や七夕や餅つきは幼稚園や保育園の行事だと思っています。家庭学習は、塾や家庭教師にまかせて、自然・社会体験は地域イベントや事業に参加させる。親子で参加するのならば、意義があるのですが、子どもだけの参加では、親子の絆は深まりません。大切な家族の絆や思い出だけは、金では買えないし他人に委託することもできません。休みの日には、家族で過ごす時間を大切にしたいものです。



## 6 地域の教育力

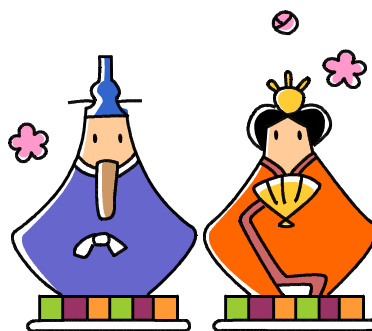
昭和30年代、私の小学校時代は、日本中みんな貧しい時代でした。その中でも、母子家庭だった私の家は特に生活が苦しくて、母は、昼間は料亭で働き、夜は内職で洋裁や毛糸編みをやっていました。小学生だった私も、家に帰ると祖母と一緒に畑に出かけ野菜を作り、夕方には近くの井戸で水を汲み、薪を割って、ご飯を炊いていました。中学校でも持って行くお弁当は、麦ご飯に梅干しとたくあん。唯一のごちそうは、月に一回、100gの牛肉ですき焼きを作り家族4人でつついて食べるくらいでした。

そんな生活でしたから、私の上着やズボンにも、あちこちに継ぎ接ぎが当たっていました。靴下もすぐに破れるので、足袋をはいて登校していました。私は、それが恥ずかしくて、新しいものを買ってくれと、母に何回も頼みました。しかし、我が家には、そんな経済的余裕はありませんでした。我が家の事情はわかっているのに、私は不平不満ばかり言っては、いつも母を困らせていました。

ある日、母にいつも洋服の仕立てを頼みにくる近所のおばさんが、私の膝に当ててある継ぎをじーっと見て「やっぱり、あなたのお母さんはすごいね。細かく丁寧に縫ってある。こんな立派な仕事は、普通の人にはできないよ。あなた自慢していいよ。」と言って帰っていきました。

その話を聞いた翌日から、私は、嘘のようにズボンの継ぎ接ぎが気にならなくなりました。反対に、誇らしくさえ思えました。そして、朝早くから夜遅くまで家族のために働く母に感謝するようになりました。私の心を変えてしまった、あの近所のおばさんの一言が今でも忘れられません。

子育ての基盤は家庭にあるのは当然ですが、家庭では担えない教育力が、地域にはあるように思えます。



## 7 トーキングストーン

昔、アメリカインディアンが話し合いをする時は、みんなで円陣を組んで座り、中央に「トーキングストーン」といわれる石を一個おいたそうです。発言したい人が、その石を握って語り、石を持っていない人は、黙って最後まで真剣に聞くことが掟（おきて）でした。馬鹿にしたり笑ったり、途中で、話の腰を折ったり、異論を唱えたりすることは絶対許されません。反対意見があっても、相手が石を置くまでは、しっかりと聞くことがキマリなのです。

人間は、一人一人生き方が違うのですから、考え方が違うのは当たり前です。個性や多様性を認め合うためには、自分と考え方が違って、最後まで聞く勇気を持つことが大切なのでしょう。

イギリスのアイランドには、この「トーキングストーン」を活用した集団カウンセリング療法があります。北アイランドでは、つい最近まで、文化や宗教、考え方の違いから争いが絶えませんでした。紛争は終わりましたが、同じ地域に、昔の敵と味方が一緒に暮らし生活をしている訳ですから、時々けんかやもめ事が起こります。

その根の深い対立を解消し、人間関係を改善するプログラムとして、この「トーキングストーン」と「故郷ハイキング」のセットプログラムが効果を上げています。お互いの心の中を知り合うとともに、一緒に故郷の美しい景色を、同じ方向で見つめ共感する体験をさせるのだそうです。



## 8 拾った財布

スーパーの駐車場での話です。車を降りて自動販売機の前に行くとその横のベンチに財布が落ちていました。拾い上げると、立派な革の財布です。中には一万円札と千円札が、併せて10枚ほど入っていました。私は、思わずあたりをきょろきょろ見回しました。あたりには誰もいませんでした。私は、ジュースを飲みながら、しばらく待っていましたが、誰も取りに来ません。

しかたなく、私は、財布を交番まで届けに行きました。後日、落とし主から電話があつて、お礼をしたいといわれましたが、丁寧にお断りしました。

話はこれでおしまいですが、どこか変だと思ふところはありませんでしたか？それは、私が財布を拾い上げて中を確認したときに、あたりを「きょろきょろ」見回したことです。あの時、私は、拾った財布を自分のものにしようとは思いませんでしたし、今でもそう信じています。これは、神様に誓ってはつきり言えます。

しかし、それでは、なんであの時、「きょろきょろ」あたりを見回したのかと聞かれると困ってしまいます。人の心は、自分が思うほど正直ではないようです。ひょっとしたら、私の中の悪魔の心が、ひょっこり顔を出した瞬間だったのかもしれない。

心には、頭で考える心と胸で感じる心の二つがあるように感じます。この二つの心が、お互いに注意しあつて正しく生きていくことができるのだと思います。

今度、財布を拾ったら、絶対「きょろきょろ」しないようにしようと思っています。



## 9 セレンディップ（セイロン島）の三人の王子

ペルシャの古い民話に「セレンディップの三人の王子」というお話があります。

セイロン島（スリランカ）からやってきた三人の王子が、協力して次々に難しい問題を解決し、誘拐された王女を救い出すというストーリーです。

三人の王子は、行方不明のラクダの足跡を見ては、ラクダが足を怪我していると直感します。食べた草の様子を調べては、歯が悪いと推測し、右側の草しか食べていないことに気づき、左目が弱っているのではないかと心配します。

この民話が語源となって、「未来を予測する能力」を、英語で「セレンディピティー」と言います。同じ意味の言葉に、「シックスセンス」という言葉がありますが、「シックスセンス」が神がかりな第六感なのに対して、「セレンディピティー」は、豊富な経験で培われた「危機を予測する能力」「チャンスを生かす直感力」のことを言います。

その洞察力や直感力は、日常生活の中の様々な経験や活動、成功や挫折体験によって培われます。神がかりなひらめきや神のお告げとは違うし、知識や情報から判断する能力とも違います。

先日、知り合いの大学教授が「最近、知識は豊富で物知りだけど、勘が働かない行動力のない学生が多くなった。」と嘆いておられました。リーダーシップ力は、その人の性格や考え方によるものではなく、その人の行動によるものです。どんなに豊富な知識を持っていても、「体験・対話」を経験しないと、勘も働かないし行動力も育たないようです。

情報化社会が進展する中で、子どもたちには、ますます知識や情報を収集し、思考・判断する能力が求められるようになるでしょう。しかし、それと同じくらい、他人とコミュニケーションしたり、行動・実践したりすることが大切であることを忘れてはならないと思います。なぜならば、経験不足を知識で補うことはできるが、経験自体を、知識で置き換えることはできないからです。

家庭でも、子ども達に、年齢にあった仕事を与えて、家族の一員としての役割を果たして貰いたいと思います。それが、子どもの「セレンディピティー」の力を育み、将来の職業観やキャリア意識を持たせることになると思います。

## 10 劣等感をチャンスに

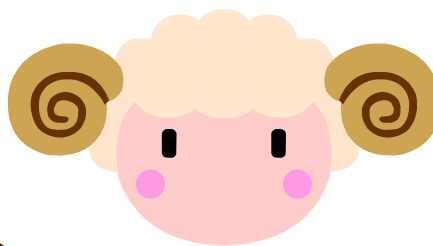
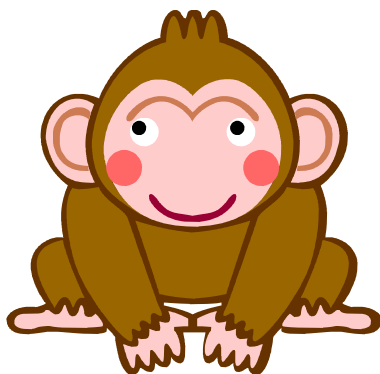
1967年、旭山動物園の入園者は年間40万人でしたが、1995年頃には、25万人まで減少して閉園の危機が訪れていました。そこで全職員が集まって話し合い、来園者に動物の行動や習性を説明し、興味関心を持ってもらおうということになりました。

しかし、動物園の職員は、動物の飼育は得意だけど、話したり説明したりすることは苦手な者ばかりです。それでも、動物園の生き残りをかけてみんな一生懸命練習してがんばりました。しかし、その中に、特に無口で話すのが下手な職員がいました。彼は、「動物は大好きだから、いつまでも動物園で働きたいが、人前で説明はしたくない。でも、しないと入園者が減って閉園しなければならぬ。」と悩んでいました。

このジレンマの中で、彼が考え出した説明方法が「行動展示」でした。言葉で説明しなくても、動物の生態や習性が一目で理解できる展示方法を、彼は発明したのです。そして、話し下手の彼が、その行動展示の必要性を、しどろもどろながら一生懸命に訴えました。それを聞いた職員たちは「あの無口な男が頑張っている。俺たちも頑張らなければ」と思い動き始めます。旭山動物園が、「行動展示」を全園展開すると、入園者は爆発的に増えました。旭山動物園は、日本の一番北にある田舎の動物園ですが、今では年間300万人が訪れる大人気の動物園になりました。

私たちには、みんな苦手なことが一つや二つはあります。それを乗り越える方法は二つあります。一つは一生懸命努力をして苦手を克服すること。もう一つは、それに代わる方法を考え出すことです。

苦手なことにチャレンジすることも大切です。しかし、どんなに頑張ってもできないことだってあります。そんな時は、くよくよしないで、違う方法を考えることです。大切なことは、一つのことにとこだわらずに、いろいろな方法を考えることができ、みんなで協力して困難を乗り越える団結力と強い意志を持つことではないでしょうか。



## 11 「ヘレン・ケラー」と「はなわ ほ き いち埴保己一」

ヘレン・ケラーは、戦前と戦後の二回、日本を訪れています。一回目の訪問（昭和12年5月）では、長崎の雲仙や熊本の三角港・阿蘇山などを訪れて、長崎・熊本で講演会を行っています。新聞記者から「日本人で尊敬する人は？」と聞かれて、彼女は「埴保己一」と答えたそうです。彼は、江戸時代の検校（視覚障害の学者）で百科事典「群書類従」を版木で編集した学者です。幕末のペリー来航の頃、捕鯨基地としてアメリカは小笠原諸島を「アメリカ領土」と宣言しますが、彼が編集したこの事典に「小笠原諸島」の記述があることから、しづしづ日本に返還したと言われていています。

ヘレン・ケラーは、彼が、「源氏物語」の講義をした時のエピソードについて語っています。講義中に風が吹いて、ろうそくの炎が消えて真っ暗になっても、彼は止まることなく講義を続けたこと。弟子が、「明かりをつける間しばらくお待ちください」とお願いすると、保己一は「目が見える人は不便ですね」と言って弟子を笑わせたといわれています。

ヘレン・ケラーのお気に入りの話だったようです。このように、私達は、マイナス面だけに焦点を当て、悲しんだり同情したりするだけでなく、プラス面にも光を当て、ポジティブに捉えて、みんな元気がでるような仕組みを考えることが大切だと思います。



## 12 「魔法の杖」と「魔法の言葉」

映画「ハリーポッター」では、最後の章でポッターは、世界最強の魔法の杖、ニワトコの杖を折って捨てててしまいましたが、なぜポッターは、大切な魔法の杖を捨てたのでしょうか。

ハリーポッターは、もう杖の必要のない時代になったから、杖が存在すると悪用されるからだと言っています。

死の秘宝の章で、ダンブルドア校長先生は、「ポッターよ！その昔私は言葉に不思議な力があることを知った。それ以来、言葉を磨いてきた。ポッターよ、言葉こそ世界最高の魔法じゃ。人を傷つけることも癒やすこともできるのじゃ。」と言っています。

魔法の杖や魔法のホウキがないと魔法を使えないのならば、私たちは、魔法使いになることはできません。

しかし、言葉に魔法の力があるのならば、言葉を磨けば私たちだって魔法使いになれるはずです。人を傷つけるのも言葉、人を救うのも言葉です。私たちも言葉を磨いて、ハリーポッターのような世界最強の魔法使いになってみたいと思いませんか？

しかし、言葉を磨くためには、言葉だけではだめなのです。同時に心も磨かなければ効果は半減しています。ちょっと油断していると悪魔の心が忍び寄り、ボルデモートのように人々を傷つけることになりかねません。言葉と心を磨いて、人を癒やし元気づける魔法をしっかりと学び、この世の中に未だに残るいじめや差別をなくし、みんなが元気を取り戻せるような「言葉の魔法使い」になってみませんか？



### 13 人生のプロジェクト

漫画家になりたいと思っている青年が  
毎日、がむしゃらに漫画を描いていました  
しかし、なかなか考えがまとまりません  
霧の中で、もがいているようでした

彼は、雑誌の懸賞漫画に応募しようと考えました  
その締切りが、三ヶ月後だと知った途端に  
彼の行動は、とても具体的になりました  
登場人物、ストーリー、ページ数、場面、  
コマ割、背景、人物、吹き出しの台詞  
締切りまでの細かなスケジュールができあがりました

スコップで、地面を掘っている二人の少年がいました  
「あなたは何をしているの？」とたずねると  
一人は「穴を掘っている」と答えました  
もう一人は、「井戸を掘っている」と答えました

この二人の少年の将来は大きく違ってくるでしょう  
同じ仕事でも、完成イメージやゴールを意識したり  
目標を持つことで、一日の過ごし方が変わります  
自分の未来が見えると、生き生きと行動的になります  
毎日が明るく充実したものになります



## 14 長崎カステラ

昔、私は小学校の教師をしていたので、修学旅行でよく長崎に行きました。修学旅行のお土産は決まってカステラでした。当時小学生の息子と幼稚園の娘は、いつも私のお土産を楽しみにしていました。

私が、長崎の修学旅行から帰った翌日、子ども達は、お土産のカステラの前でもめていました。昔はカットしたカステラは売ってありませんでしたから、ナイフでカットしなければいけません。息子は等分したカステラを娘に先に取らせて、残りを自分取りました。しかし、食べようとする娘は気移りがして、やっぱりお兄ちゃんの方がいいと言うのです。交換して又食べようとする、また、やっぱりもとの方がいいと言いました。息子は困り果てていましたが、ふと名案が浮かびました。等分したカステラを、さらに二つにカットして娘に見せて「一つと二つはどっちがいい？」と聞きました。娘は間髪入れず「二つがいい！」と答えました。息子の作戦通り、娘は私の所に飛んできて、「お兄ちゃん一つ、私は二つ！」と喜んでいました。

それから、数日して、妻がイチゴケーキを買ってきました。娘はイチゴケーキは大好きですが、ほとんどイチゴだけしか食べません。イチゴだけぱくっと食べて、「おかわり」といいました。妻がおかわりはありませんというと、娘は「おかわりがほしい」とだだをこねました。それを見ていた息子は、娘の食べかけのイチゴケーキを持って台所に行き、冷蔵庫からイチゴを取り出して、食べかけのケーキの上に載せました。

そして、「ハイ、おかわり！」と出して差し出しました。娘は2～3回そんな形でおかわりをしていましたが、流石に自分だけおかわりをするのを申し訳なく思ったのか「お兄ちゃん達はおかわりしないの？」と聞きました。息子が「お兄ちゃんは一箇で我慢するよ。」というと、娘は少し申し訳なく思ったのか「私のイチゴケーキをお兄ちゃんにあげる。」と行って部屋を出て行きました。もう成人している娘にこの話をすると、「私ってそんなにわがままだったかな？」と首をかしげますが、私にとっては、懐かしい大切な思い出になります。時々思い出しては、一人でクスクス笑っています。



## 15 「ピグマリオン効果」と「ゴーレム効果」

キプロスの王「ピグマリオン」は、大理石で「人間像」の彫刻を造りました。キプロスの国民は彼の作品を絶賛し、神々は彼に名人の称号を与えます。すると、彼は、さらにその像を生命の通う人間にしたいと思い、再び彫り続けます。そのピグマリオンの信念と行動力は女神アフロディテの心を動かし、その像は、本当に優しい心と強い意志を持つ人間になるというお話です。「信念を持って努力したり、褒め励まし続けられれば、不可能なことも可能になる。」という心理学用語「ピグマリオン効果」の由来となった伝説です。

ゴーレムとは、ユダヤで語り継がれている泥人形です。ゴーレムは、創った主人の意のままに操られ、命令すれば何でもするのですが、叱らないと最後までやりません。額の文字を書いた紙が剥がされると泥に戻ってしまいます。「命じられると、善悪の区別なく何でもしますが、自分の意思では何もできません。」「ゴーレム効果」は、このお話がもとになった心理学用語です。

○根気よく「認めて褒めて励まし」不可能を可能にする「ピグマリオン効果」  
夢や目標を持たせながら活動させたり、長所も短所も丸ごと認めたうえで、得意なことはしっかり褒め、苦手なことにチャレンジする時は励ましたりすれば、子どもは大きく伸びます。これが「ピグマリオン効果」です。

○ダメ出しの言葉で可能性とやる気を奪う「ゴーレム効果」  
「しなさい」と言われると、渋々します。「そうじゃない、こうしなさい。」「なんでこんなこともできないの」と言われ続けていると、その言葉通りにやる気も能力も落ちていきます。これが「ゴーレム効果」です。

## 16 駅のホームで

私は、よくJRの列車で移動します。先日、乗り継ぎのためのホームで列車を待っていました。フェンスの向こうには自転車置き場があり、よく見ると自転車が20台ほど将棋倒しになっていました。そこに、女子高生がやってきました。

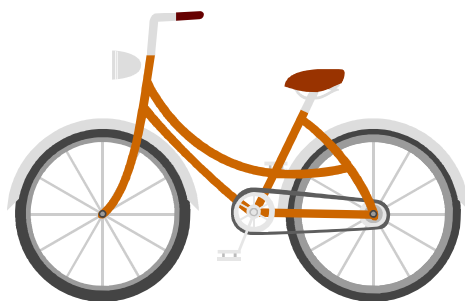
自分の自転車を取り出そうとしますが、重なっていて取れません。彼女は仕方なく右から順番に自転車を起こしはじめました。

すると、そこに中年の女性がやってきて、「あ～あ！私の自転車まだ新品なのに！」と言って女の子の方を見ました。そして、倒れている自分の自転車を引きだそうとしました。案の定、自転車は取り出せません。中年の女性は、やっとその状況を理解したらしく「ごめんね～、倒れた自転車を起こしていたんだね」と申し訳なさそうに謝りました。女子高生はにこっと笑って、「分かってもらえればいいんです。」と言いました。

それから、二人は仲良く協力しながら自転車を起こしはじめました。二つの自転車を取り出し終わると、二人は、荷物をかごに入れて帰ろうとしました。

しかし、まだ5～6台の自転車が倒れています。二人は、顔を見合わせ、再び倒れている残りの自転車を起こし始めました。

すべての自転車を起こし終わると、二人はにっこり笑いハイタッチをすると、颯爽と自転車に乗って街の中に消えていきました。私は、その背中を見送りながら、目頭が熱くなっている自分に気がつきました。二人の後ろ姿がとても大きく見えました。



## プログラム関連の絵本・コラム・情報等

プログラムⅠ<子どもといっしょに学べるプログラム>

【内容】 親子一緒に学ぶことで良好な関係づくりにつなげる。

No.	テーマ	プログラム名	○関連の絵本、□情報等	県立図書館所蔵
1	①子どもといっしょに 考えよう	1 おうちのルールを作ろう	□「できることから始めよう 早ね早おき 朝ごはん」 文部科学省リーフレット	—
2	①子どもといっしょに 考えよう	2 我が家のルールを作ろう	○「『メディア漬け』で壊れる子どもたち」 清川輝基作 少年写真新聞社	○

プログラムⅡ<幼児から中学生の子どもを持つ親向けのプログラム>

【内容】 子どもの発達段階に応じて、家庭で大切にすべきことを学ぶ。

No.	テーマ	プログラム名	○関連の絵本、□情報等	県立図書館所蔵
1	①親子のコミュニケーション	1 子どものほめ方・しかり方	○「おこだでませんように」 くすのきしげのり作 石井聖岳絵 小学館	○
2	①親子のコミュニケーション	2 子どもの悩みを聞いてみよう	○「きもち」 ジャン・ケイン作 少年写真新聞社	○
3	② 家庭のしつけとルール	1 早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣	○「14ひきのあさごはん」 いわむらかずお作 童心社	○
			○「早起き・早寝・朝ごはん」 鈴木みゆき作 芽生え社	×
			○「保護者もいっしょ 生活リズム改善ガイド」 鈴木みゆき作 ひかりのくに	×
			○「めのまどあける」 谷川俊太郎作、長新太絵 福音館書店	○
4	② 家庭のしつけとルール	2 あいさつ返事・言葉遣い	○「こんにちは」 本間正樹作 佼成出版	×
5	② 家庭のしつけとルール	3 約束を守る	○「ともだちのやくそく」 中川ひろたか作 アリス館	○
6	② 家庭のしつけとルール	4 携帯電話やインターネットと親の対応①	□「ちょっと待って！ケータイ&スマホ」 平成24年度文部科学省リーフレット	—
7	② 家庭のしつけとルール	5 携帯電話やインターネットと親の対応②	○「子どもにスマホをもたせたら親のためのリアルなデジタル子育てガイド」 デボラ・ハイトナー著・星野靖子訳 NTT出版	×
8	② 家庭のしつけとルール	6 思いやりのある行動	○「LOVE」 ジャン・ベルト ヴァンニ作 青山出版社	×
9			○「やさしさとおもいやり」 宮西達也作絵 ポプラ社	○
10	③子どもの安全・健康	1 子どもの安全について考えよう	○「みぎ・ひだり・みぎ」 タナカヒロシ作、トニー鯨山絵 ベースボール・マガジン社	○
			○「とにかくさげんてにげるんだ」 ベティー・ボガホールド作、河原まり子絵 岩崎書店	○
11	③子どもの安全・健康	2 ゲームやテレビ、SNS視聴等以外の家庭での楽しみ方	○「『メディア漬け』で壊れる子どもたち」 清川輝基作 少年写真新聞社	○
12	④子どもの個性と夢	1 我が子のPR～短所も長所～	○「おこだでませんように」 くすのきしげのり作、石井聖岳絵 小学館	○
○「こんにちはいぬ」 きたやまようこ作 あかね書房			○	
○「いいこってどんなこ？」 ジーン・モデシット作 ロビン・スポワート絵 富山房			○	
15	④子どもの個性と夢	2 応援したい！子どもの夢や希望	○「ぼくのしょうらいのゆめ」 野口聡一他作 プチプラパブリッシング	○
16	⑤学校や地域とのかかわり	1 子どもとともに地域で自然と遊ぼう	○「びっくりまつぱっくり」 多田多恵子文、堀川理万子絵 福音館書店	○
17	⑤学校や地域とのかかわり	2 社会体験で地域とつながろう	○「ウエズレーの国」 ポール・フライシュマン作、 ゲビン・ホークス絵 あすなろ書房	○
18	⑥心の痛みに寄り添う	2 差別を考えよう	□「差別をしない偏見をもたないこどもに育てるために」 文部科学省 家庭教育手帳	—
19	⑦子育て仲間づくり	1 子育ての悩みを語り合おう	○「おおきなかぶ」 ロシア昔話 福音館書店	○

プログラムⅢ＜将来の親世代(中高生・青年等) 向けのプログラム（「親になるための学習」）＞

【内容】 親になったときに、必要なこと・大切にしたいことを学ぶ。

No.	テーマ	プログラム名	○関連の絵本、□情報等	県立図書館所蔵
1	①親の立場の理解	1 子どもの気持ちと親の気持ち	○「おやおやじゆくへようこそ」 浜田桂子作 ポプラ社	○
			○「おはなししましよう」 谷川俊太郎詩、元永定正絵 福音館書店	○
			○「きいてきいて」 たかぎちず作 長崎出版	○
2	②家族の一員として	2 家事・育児は誰の仕事ですか	○「おんぶはこりごり」 アンソニー・ブラウン作 平凡社	○
3	③大人としての自立	3 働くことについて考えよう	○「みやざきわくわくワーク」 ヤングJOBサポートみやざき	○
			○「しごとば」 鈴木のりたけ作 ブロンズ新社	○
4	④地域の一員として	4 地域活動に参加しよう	○「おいそがし、こいそがし」 ユンクビョン作、イラスト 平凡社	○
5	⑤子どもの気持ちを受け止める	5 悩みをいっしょに考える	○「たったひとつの命だから」 ワンライフプロジェクト 地湧社	×

プログラムⅣ＜祖父母・シニア世代向けのプログラム＞

【内容】 子育ての先輩として、祖父母・シニアに望まれることを学ぶ。

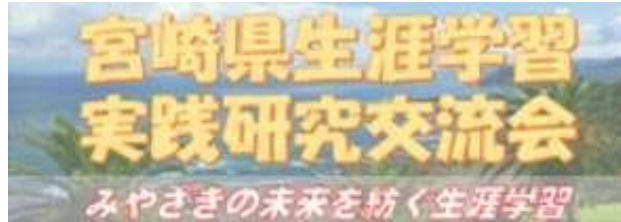
No.	テーマ	プログラム名	○関連の絵本、□情報等	県立図書館所蔵
1	①祖父母としての役割	1 孫のかかわり方について考えよう	○「だいじょうぶだいじょうぶ」 いとうひろし作 講談社	○
			○「おばあちゃんのコもりうた」 西本鶏介作、長野ヒデ子絵 ひさかたチャイルド	○
2	①祖父母としての役割	2 子育て中の親への接し方について考えよう	○「孫育て一年生」 棒田 明子著 KADOGAWA	×
3			○「孫育ての時間」 山縣威日・中山真由美編 吉備人出版	×
4	②子育ての先輩として	地域の親の相談にのろう	○「最初の質問」 長田弘詩、いせひでこ絵 講談社	○
5	③シニアの知識や技	自分の持っている知識や技を伝えよう	○「わらべうたであそびましょ！」 さいとうしのぶ編・作 のら書店	○

プログラムⅤ＜地域住民向けのプログラム＞

【内容】 地域の親子とのかかわり方において、必要なこと・大切なことを学ぶ。

No.	テーマ	プログラム名	○関連の絵本、□情報等	県立図書館所蔵
1	①子どもを見守る	地域の子どもは地域で育てる	○「ペレのあたらしいふく」 エルサ・ベスコフ作 福音館書店	○
			□みやざき26 スマイルプロジェクト 宮崎県教育庁チャンネル：Web	-
2	②地域活動への参加	1 地域活動の輪を広げよう (地域住民)	○「まつり」 いせひでこ作 講談社	○
			□みやざき26 スマイルプロジェクト 宮崎県教育庁チャンネル：Web	-
3	③地域を知る	地域のよさ(ひと・もの・こと)を伝えよう	○「だじゃれ日本一周」 長谷川義史作 理論社	○
			□みやざき26 スマイルプロジェクト 宮崎県教育庁チャンネル：Web	-





宮崎県の生涯学習・社会教育のことなら

**みやざき学び応援ネット**  
新生涯学習総合情報提供システム

<http://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp/>



**みやざき学び  
応援ネット**  
携帯サイト

お持ちの携帯からも  
情報をご覧頂けます。